

郷土の文化財 28
MASHITA MARUYAMA SITE

間下丸山遺跡

平成 18 年度 国庫補助事業・総合流域防災事業に伴う
間下丸山遺跡発掘調査報告書

2007 年（平成 19 年）3 月

長野県諏訪建設事務所
長野県岡谷市教育委員会

郷土の文化財 28

MASHITAMARUYAMA SITE

間下丸山遺跡

平成 18 年度 国庫補助事業・総合流域防災事業に伴う
間下丸山遺跡発掘調査報告書

2007 年（平成 19 年）3 月

長野県諏訪建設事務所
長野県岡谷市教育委員会



長野県内における遺跡の位置図

序

岡谷市の市街地中心部にあたるこの地は、三沢勝衛先生によって「塚間川段丘」と名付けられ、北は現在の中央道岡谷インターに位置する中島A、中島B遺跡にはじまり、諏訪湖に半島状に突き出た海戸、岡谷丸山遺跡まで、西山山地山麓を含め数多くの遺跡が並び、学術的にも全国的に著名な遺跡が多くあります。

間下丸山遺跡は、『諏訪史第一巻』にも紹介され、古くから知られた遺跡であります。本格的な調査は平成9年の丸山橋線拡幅工事に伴う発掘以来久しく、その時には縄文時代中期の住居跡ならびに古墳、平安、中世各時代の住居跡や遺物が発見され、長期にわたる集落であったことが判明しました。

今回の調査は大川の左岸に近いところであり、当時の人々の水辺における生活の痕跡の発見が期待されていました。そして、2ヵ月に及ぶ調査では、縄文時代後期の土壇墓をはじめ54基に及ぶ小竪穴が発見され、川の際まで人々の生活の跡が見られたことは貴重な成果でした。

本書はこうした調査成果をできる限り記録にのこすために掲載し報告するものです。今後この報告書が岡谷市の原始・古代の生活の様子を解き明かし、学術・文化の向上に少しでも寄与できますことは意義深いことと嬉しく思っています。

平成18年7月の豪雨災害では市内各地に大きな爪跡をのこし、多くの人命を失いましたことは、大きな悲しみでありました。大川流域におきましても浸水の被害を受けられた方もいらっしゃいます。調査地に造られます遊水池がこのような災害を防ぐ施設であり、皆様の生活の安全が確保されますことを喜ばしく思っています。

最後になりましたが、埋蔵文化財の保護に対しまして、深いご理解ご協力いただきました長野県諏訪建設事務所、静岡谷組をはじめとする工事関係者、地元間下区、新屋敷区の皆様へ厚く御礼申し上げます。

平成19年3月

岡谷市教育委員会

教育長 北澤 和男

例 言

1. 本書は、平成 18 年度国庫補助事業・総合流域防災事業に伴う、間下丸山遺跡発掘調査を実施した、その報告書である。
2. 調査は長野県諏訪建設事務所の委託を受けて、岡谷市教育委員会が行った。
3. 発掘調査の主体者は、岡谷市教育委員会である。平成 18 年度内に調査と出土品整理を実施した。調査団の組織は第 1 章 3 に挙げた。
4. 本書は、教育委員会生涯学習課文化財担当が編集、第 1 章に調査の概要を掲載して、整理作業、執筆分担を第 1 章 3 に明記し、稿末にも記した。
5. 調査の方法、資料整理及び報告書作成の基準、範例の詳細は第 1 章に詳述した。
6. 出土品、記録類はすべて岡谷市教育委員会が保管している。

目 次

序

例言

| | |
|--------------------------|----|
| 第1章 調査の経過と概要 | 1 |
| 1 調査の経過 | 1 |
| 2 調査の概要 | 1 |
| 3 調査組織 | 9 |
| 第2章 遺跡の位置と環境 | 11 |
| 1 遺跡の環境 | 11 |
| 2 周辺の遺跡 | 11 |
| 3 調査区の土層について..... | 13 |
| 第3章 遺構と遺物 | 14 |
| 1 住居址と遺物 | 14 |
| (1) 14号住居址 | 14 |
| 2 小竪穴と遺物 | 15 |
| (1) A類 一括土器を伴う小竪穴 | 15 |
| (2) B類 集石を伴う小竪穴 | 18 |
| (3) C類 骨片、焼土を伴う小竪穴 | 21 |
| (4) D類 炭化物を多く含む小竪穴 | 21 |
| (5) その他 | 21 |
| 3 遺物 | 21 |
| (1) 石器 | 21 |
| (2) 土器 | 30 |
| (3) 土製品・石製品 | 34 |
| 4 平安時代～中世の出土遺物 | 37 |
| 第4章 まとめ | 38 |
| 附表 小竪穴一覧表 | 39 |
| 石器属性表 | 40 |
| おわりに | 48 |
| 写真図版 | 49 |
| 報告書抄録 | |



第1圖 遺跡(○印)位置圖(1:50,000)

第1章 調査の経過と概要

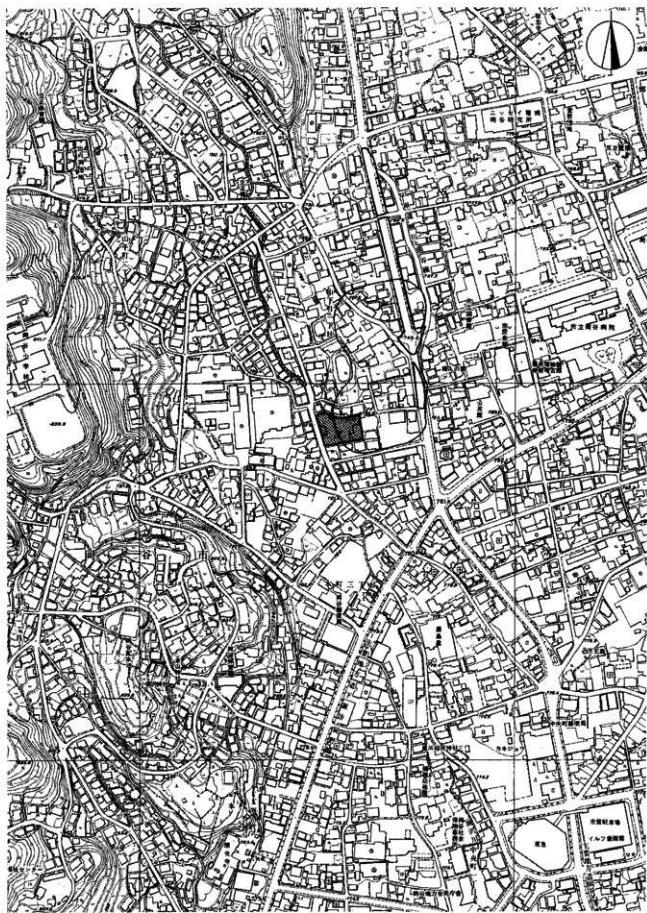
1. 調査の経過

| | |
|------------|---|
| 平成17年5月15日 | 長野県諏訪建設事務所長が長野県教育委員会へ「土木工事のための埋蔵文化財発掘の通知書」を提出する |
| 7月27日 | 長野県諏訪建設事務所長が岡谷市教育委員会教育長へ「平成18年度以降実施予定の公共事業等に係る埋蔵文化財及び史跡・名勝・天然記念物の保護について（協議）」を提出する |
| 8月3日 | 間下丸山遺跡発掘調査について長野県諏訪建設事務所計画課、岡谷市土木公園課、岡谷市教育委員会生涯学習課の三者にて保護協議を行う |
| 平成18年3月5日 | 長野県諏訪建設事務所長が岡谷市教育委員会教育長へ「平成18年度国補総合流域防災事業に伴う埋蔵文化財発掘調査に関する見積もりについて（依頼）」を提出する |
| 3月15日 | 岡谷市教育委員会教育長が長野県諏訪建設事務所長へ「平成18年度国補総合流域防災事業に伴う埋蔵文化財発掘調査に関する見積もりについて」を提出する |
| 4月3日 | 長野県諏訪建設事務所長平沢清を委託者とし、岡谷市長林新一郎を受託者として埋蔵文化財発掘調査業務委託契約を締結する |
| 4月13日 | 工事施工業者株式会社岡谷組土木部と工事日程の打ち合わせを行う |
| 4月19日 | 間下丸山遺跡発掘調査について長野県教育委員会文化財・生涯学習チーム、長野県諏訪建設事務所整備チーム、(財)長野県建設技術センター、岡谷市教育委員会生涯学習課の四者による保護協議を行う |
| 5月30日 | 調査対象地内において発掘調査を開始する |
| 9月25日 | 現場作業を終了する |
| 9月26日 | 出土資料整理作業に入る |
| 平成19年3月15日 | 間下丸山遺跡発掘調査報告書上梓 |
| 3月16日 | 埋蔵文化財発掘調査業務委託を完了する |

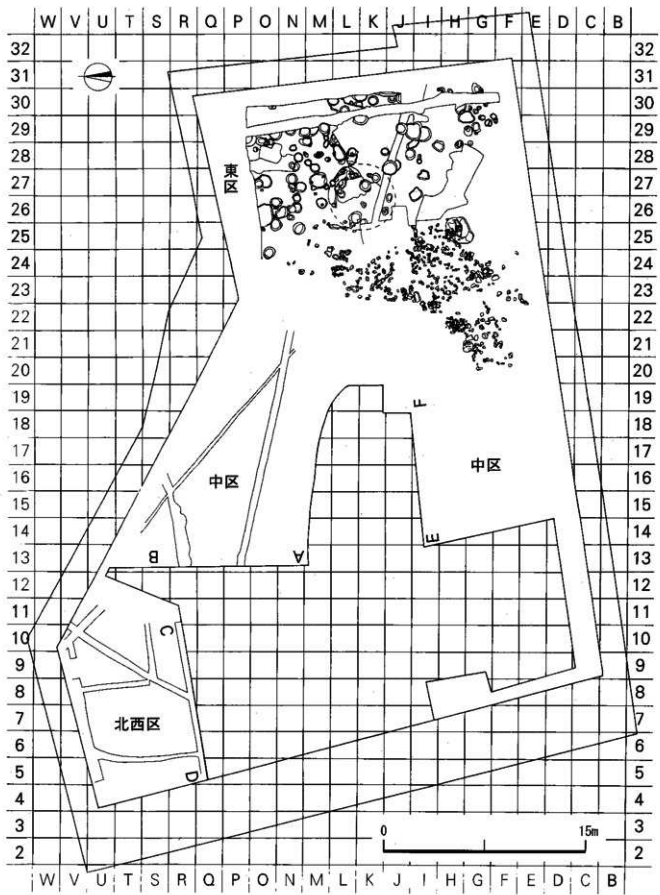
2. 調査の概要

(1) 事業抄録

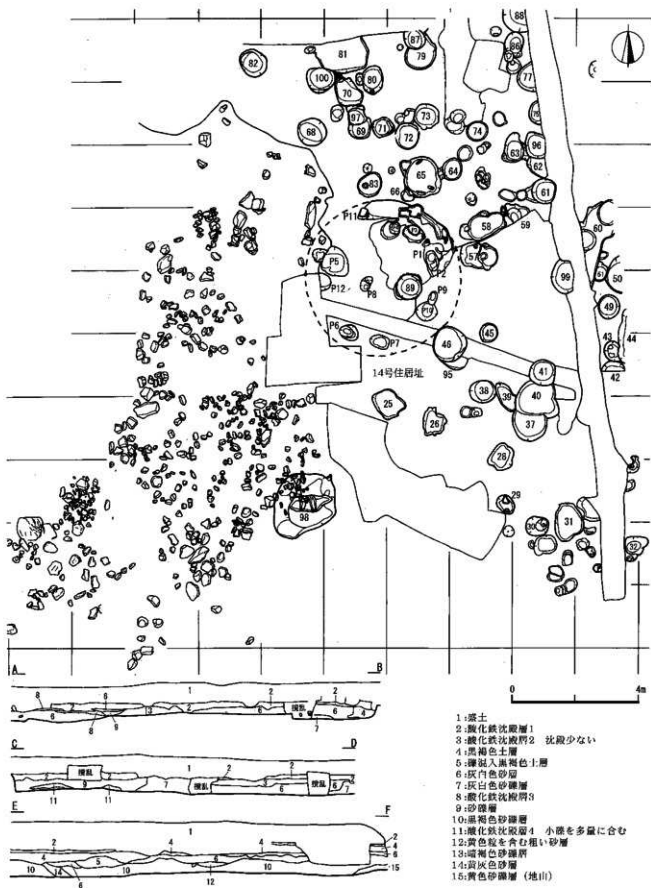
| | |
|-------|--------------------------------|
| 遺跡名 | 間下丸山（ましたまるやま）遺跡（岡谷市遺跡地図 No.83） |
| 調査の目的 | 平成18年度国補総合流域防災事業 |



第2図 遺跡の立地と調査区位置図 (1 : 5,000)



第3図 調査区全体図 (1:280)



第4図 遺構全体図 (1:120)

| | |
|---------|--|
| 事業主体者 | 長野県諏訪建設事務所 |
| 発掘調査主体者 | 岡谷市教育委員会（生涯学習課文化財担当） |
| 発掘調査期間 | 平成 18 年 5 月 30 日～平成 18 年 6 月 8 日 平成 18 年 7 月 26 日～平成 18 年 9 月 25 日 （詳細は経過参照） |
| 遺物整理期間 | 平成 18 年 10 月～平成 19 年 3 月 |

（2）調査

調査方法

①発掘区の設定

開下丸山遺跡では平成 18 年度国補総合流域防災事業に伴う発掘調査が行われ、遊水地設置地点に発掘区を設定した。

②発掘地区の呼称について

調査区を北西区、中区、東区に区分し、さらに小竪穴中部を小竪穴群とした。

③グリッド表記について（第 3 図）

2×2 m のグリッドとし、南北方向をアルファベット、東西方向を数字にて設定した。

発掘調査面積 1486.44 ㎡

（3）発見された遺構

縄文時代 住居址 1 棟

小竪穴 54 基（内中期 11、後期 28）

（4）発見された遺物

縄文時代 石器

土器（中期～晩期）

弥生時代 土器（前期）

平安時代 土師器・須恵器

中世 土師器皿（カワラケ）

第 1 表 石器 器種別点数

| | | | | | | |
|---------|-------|--------|-------|-------|----|----|
| 石 鏃 | 182 | 原 石 | 538 | 磨石類 | 磨石 | 11 |
| 石鏃未製品 | 153 | o b 剥片 | 1,972 | | 凹石 | 9 |
| 尖頭器 | 2 | 石 匙 | 5 | 石 皿 | 4 | |
| 石 鏃 | 37 | 打製石斧 | 32 | 砥 石 | 6 | |
| ob不定形石器 | 597 | 磨製石斧 | 20 | 石 棒 | 1 | |
| 両 極 | 1,180 | 石 錘 | 28 | 不定形石器 | 14 | |
| 石 核 | 110 | | | | | |

第2表 土器片点数

| 時期\地区 | 東区小竪穴群 | 北西区・中区・東区砂礫層 | 14号住居址 | 小竪穴 |
|--------------|--------|--------------|--------|-------|
| 縄文時代中期 | 11 | 43 | 5 | 41 |
| 中葉 | 241 | 578 | 23 | 111 |
| 後葉 | 62 | 48 | 2 | 59 |
| 後期 | 144 | 354 | 12 | 124 |
| 後期～晩期 | 41 | 129 | 0 | 4 |
| 晩期 | 3 | 26 | 0 | 2 |
| 弥生時代 | 0 | 19 | 0 | 3 |
| 平安時代 | 0 | 38 | 0 | 4 |
| 中世 | 0 | 171 | 0 | 0 |
| 縄文時代 無文 | 1,582 | 3,959 | 74 | 694 |
| 縄文 | 37 | 56 | 7 | 73 |
| 底部 | 46 | 144 | 2 | 20 |
| 不明 | 71 | 175 | 21 | 132 |
| 一括土器及び図化した土器 | 14 | 45 | 1 | 13 |
| 計 | 2,252 | 5,785 | 147 | 1,280 |

第3表 土製品・石製品点数

| | | | | | |
|------|----|---------|---|------|---|
| 土 偶 | 1 | ミニチュア土器 | 8 | 異形石器 | 1 |
| 土器円板 | 5 | 垂 飾 | 1 | 滑 石 | 1 |
| 土器片錘 | 16 | 耳 栓 | 1 | | |
| 管状土錘 | 2 | 舟形土製品 | 1 | | |

(5) 資料整理の覚書

①注記—遺物・図面

遺跡 No. 間下丸山遺跡 83

遺物 No. 遺跡 No.・次数・グリッド・遺物取り上げ No.・出土遺構 No.と層位
 なお、報告書中の一覧表(属性表等)では遺跡 No.を省略している。

略 号 注記上の略号

グリッド グリッド名を示すアルファベットと数字で示し、グリッドを示す G
 は省略している。

遺構記号 住居址-H

小竪穴-P (数字の後に付す)

柱穴 -P (数字の前に付す)

層位 (土層名) 略語

| | | | |
|-------------|---------|--------|------|
| 住居址覆土 | フ | 灰白色砂礫層 | サレキ |
| 住居址床上または床直 | 床 | 黄灰白砂礫層 | サレキ |
| 灰白色砂層 | スナ | 灰黄色砂層 | スナ |
| 酸化鉄沈殿層 | サン | 灰色砂層 | スナ |
| 黒褐色砂礫層 | クロカツサレキ | 床土 | トコ |
| 赤褐色土 | アカカツ | 黒褐色土 | クロカツ |
| 黄褐色砂礫層 | サレキ | 茶褐色土 | 茶カツ |
| 暗褐色砂礫層 | サレキ | 攪乱 | カク |
| 黄灰色土 | キハイ | 盛土 | モリド |
| 灰白色砂層酸化鉄沈殿層 | スナサン | | |

②石器実測図と属性表

石器全点の実測ができなかったため、黒曜石製品以外の遺物について実測図化及び掲載を行った。その他については石器属性表に記述して掲載した。

図化にあたっては、一部はスケッチグラフを使用し、その他は写真実測である。写真は、株式会社シン技術コンサルに委託して撮影し、実測図化は岡谷市教委が行った。属性表に見る観察項目、計測値の凡例については「梨久保遺跡」第V章第2節(昭和61年 岡谷市教育委員会)によっている。

石材の略号は以下のとおりである。

| | | | | | |
|--------|-----|---------|----|-------|----|
| 黒 曜 石 | ob | 緑色凝灰岩 | 緑凝 | 砂質片岩 | 砂片 |
| チャート | ch | 緑色片岩 | 緑片 | 花崗岩 | 花 |
| ハリ質安山岩 | ハリ安 | 頁 岩 | 頁 | 斑レイ岩 | 斑 |
| シルト岩 | sh | 泥 岩 | 泥 | 閃 緑 岩 | 閃 |
| 水 晶 | cr | 粘 板 岩 | 粘 | 蛇 紋 岩 | 蛇 |
| 安 山 岩 | 安 | 泥 質 片 岩 | 泥片 | 軽 石 | 軽 |
| 硬質安山岩 | 硬安 | 砂 岩 | 砂 | 滑 石 | 滑 |
| 凝 灰 岩 | 凝 | 硬質砂岩 | 硬砂 | | |

その他、計測値の () は残存値であることを表す。

③石器実測図と観察表

土器は、遺構の所属年代を明示する意味で、図化できる程度の残存状態にあるものは極力、実測図化・掲載に努めた。図化にあたっては、文様の拓本による図示、無文土器の実測の一部を除いて、株式会社シン技術コンサルの写真実測(スリット写真トレース)によっている。委託は写真撮影までで、図化はすべて自力で行った。

文様表現は沈線と、隆線の違いを線の太さによって表現している。刺突文は施文具の違いや、刺突と押しきの差、また縄文は撚りの違いなど完全に表現できないので、観察表の説明を併読されたい。復原部分の文様はわずかな欠損や文様が明らかな部分は復原トレースしているが、推定部分などはト

レース線を変えている。断面については、推定または部位を変えてつないでいる場合、線を切って示している。

土器の観察表は図版中にそれぞれ掲げた。計測値の()は推定値ないし残存値。高さは口縁部まで、把手がある場合は顶部までを併記、口径・底径は最大値である。省略記号は「縄」は縄文時代を意味し、「前」は前期、「中」は中期、「後」は後期、縮尺は図版ごとに明示している。

土器の時期区分については「梨久保遺跡」第V章第1節(前掲)の第11表に沿って区分している。

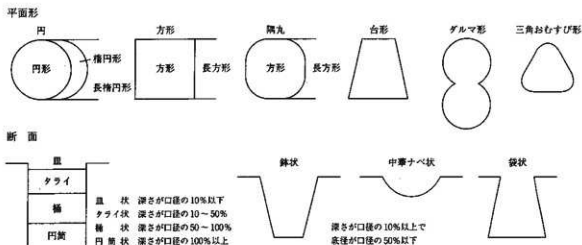
④住居址一覧表

記載内容に特筆事項はない。

⑤小竪穴一覧表

特殊な例を除いて一覧表にまとめた。番号順に並べている。平面形、断面形については分類基準を基本的に「扇平遺跡」(1974 岡谷市教育委員会)、具体的に「梨久保遺跡」(前掲)によるが、図示すると第4表のとおりである。

第4表 小竪穴平面形及び断面形模式図一覧



⑥遺構図

遺構図中の略語は以下のようにした。

F 焼土及び炉

S 石

P 土器

C 炭化物

数字P 小竪穴(例 810P:遺構図中の小竪穴No.はPを省略している)

P数字 柱穴または小穴(例 P1)

⑦報告書執筆にあたって

- ・住居址は「住」と略している場合が多い。(例 1住→1号住居址)
- ・小竪穴は「P」の略語を用いて記している。(例 100P→小竪穴No.100)

3. 調査組織

(1) 発掘調査組織

平成18年度国補総合流域防災事業に伴う間下丸山遺跡発掘調査は平成18年5月にスタートした。発掘作業従事者は長・短期の差はあるが、大部分の方々が継続して参加、その数は18名にのぼる。

| | | | |
|-------|-----------------|--------------|----------------|
| 事務局 | 北澤 和男 (教育長) | 宮坂 英幸 (教育部長) | 宮坂 春夫 (生涯学習課長) |
| | 会田 進 (生涯学習課副参事) | 小坂 英文 (同主査) | 宮坂 昌代 (同主事) |
| 調査員 | 林 賢 | 山田 武文 | |
| 調査補助員 | 塩沢 大地 | 中田 里佳 | |
| 発掘員 | 鮎沢 勝一 | 伊藤 雪子 | 今井 敏男 |
| | 興石 甫 | 清水 弘子 | 武井 宏樹 |
| | 林 順子 | 丸山ゆき子 | 宮坂あさ子 |
| | | | 今井 陽子 |
| | | | 小口 吉重 |
| | | | 新美 浜夫 |
| | | | 林 久美子 |
| | | | 桃沢 良三 |

(2) 遺物整理作業分担

| | | |
|---------------------|---------|-------|
| 黒耀石製石器・剥片・未製品・黒耀石原石 | 河原喜重子 | 塩沢 大地 |
| その他黒耀石以外の石器・剥片 | 河原喜重子 | |
| 土器 | 山田 武文 | 宮坂 昌代 |
| 土製品 | 山田 武文 | |
| 土器復原 | 岡谷市土師の会 | |
| | 宮沢 光男 | 笠原 鈴子 |
| | 興石 甫 | |
| 土器実測・トレース | 宮坂あさ子 | 遠藤 博美 |
| 石器実測・トレース | 河原喜重子 | 林 靖子 |
| | 塩沢 大地 | 中田 里佳 |
| | 今井 陽子 | |
| 土製品・トレース | 山田 武文 | 宮坂あさ子 |
| 遺構図トレース | 清水 弘子 | 宮坂あさ子 |
| 拓本採取 | 宮坂あさ子 | |
| 図版作成 | 河原喜重子 | 宮坂あさ子 |
| | 清水 弘子 | 山田 武文 |
| | 塩沢 大地 | 宮坂 昌代 |

(3) 報告書執筆分担 (主たる記述)

a 石器

| | | |
|------------------|-------|-------|
| 石器属性表 | 河原喜重子 | 塩沢 大地 |
| 黒耀石製石器・石器未製品等属性表 | 河原喜重子 | 塩沢 大地 |

b 土器・土製品

土器観察表

山田 武文 宮坂 昌代

土製品

山田 武文

c 遺構

住居址

宮坂 昌代

小竪穴

山田 武文

d 本文執筆

第1章 1. 調査の経過

小坂 英文

2. 調査の概要

宮坂 昌代

3. 調査組織

宮坂 昌代

第2章 1. 遺跡の環境

山田 武文

2. 周辺の遺跡

山田 武文

第3章～4章 (各項文末参照)

第2章 遺跡の位置と環境

1. 遺跡の環境

岡谷市は諏訪湖北地区の主部を占め、湖北の西壁を成す塩嶺山塊や北壁の長地山塊などの山地、その山麓とそれに続く段丘状の丘陵地帯、横河川がつくった広大な扇状地、諏訪湖沿岸や天竜川沿岸及び中小の河川の流路に沿ってわずかに見られる沖積低地の大きく四つに分けられる。これらのうち、沖積低地には今のところ遺跡の存在が知られていない。

間下丸山遺跡は、西山山地の山麓と塚間川との段丘上ほぼ中央部西側にある。この段丘は標高770～820 m、幅200～500 mで南北に細長く連なり、三沢衝衡によって塚間川段丘と名付けられた。塚間川との比高差5～10 mの微高地で河成段丘ではなく、水準点検測成果から塚間川西岸地域の隆起活動が認められ、大地の隆起によって形成されたと考えられている。ここに大川などの河流堆積物が載って段丘を形成している。このことは横河川扇状地の砂礫層柱状断面図からも、同質砂礫の標高が東岸より西岸が数m高く、地盤運動の差と考えることができる。

また、段丘上には北から今井十五社、旧焼場跡、間下墓地、堂山、長塚墓地の小丘が南北に配列し、西側には間下丸山、岡谷丸山の小丘がある。

今回の調査区は、前述の通り、段丘ほぼ中央部西側にあたり、すぐ西を大川が流れている。調査区の大半は砂礫層が堆積し、河川敷であったと思われる。東側に一部ローム層が見られ、ここに小竅穴群があった。

2. 周辺の遺跡

塚間川段丘から西山山地山麓には、間下丸山遺跡周辺に多くの遺跡が知られている。これらは段丘上、山地山麓、段丘低地、天竜川沿岸に分けられ、それぞれに特色をもつ。

段丘の先端部は二つの半島状に突き出し、東は海戸、西は岡谷丸山遺跡がある。そこから北に隣接して天王垣外、西に横道遺跡と弥生時代中期の著名な遺跡が広範囲に広がる。さらには北には、禅海塚、外畝、北海途遺跡があり、中央自動車道岡谷インターチェンジの中島A、中島B遺跡へと至る。この段丘上の南半部分は長期に利用され、縄文時代～中世に至る複合遺跡が多い。特に海戸、岡谷丸山遺跡は、縄文時代草創期から中世に至る各時代の遺構、遺物が発見され、天竜川をさかのぼった人々の諏訪への入口として重要な位置を占めていたと思われる、各地との交流を物語る遠隔地の土器が発見されている。

西山山地山麓には、月見ヶ丘、間下化木、ウツギ、滝の沢、小部沢遺跡など縄文時代前期末～中期初頭、あるいは中期後葉の時期に属する多くの高地性小規模遺跡が点在する。中でも下り林遺跡は縄



第5図 周辺の遺跡 (1:10,000)

文時代早期から中期初頭の遺跡として著名である。山地山麓には中央道長野線が走り、それに伴う発掘調査では、大久保B、下り林、西林A、大洞、膳棚、柳海途遺跡が調査され、段丘上の中島A、中島B遺跡を含め西山山地および周辺の状況を明らかにすることとなった。

天竜川沿岸では左岸に橋原遺跡がある。昭和53～55年にかけて行われた調査では、弥生時代後期の大集落と多量の炭化米が発見され、該期の様相の解明に重要な遺跡である。

間下丸山遺跡は、『諏訪史第一巻』（以下、諏訪史一）に「土器（厚・弥）、土偶顔面、石皿（脚付）、砥石、打石斧、磨石斧、石棒、石鏃」など豊富な遺物の出土が伝えられている。平成7～9年にかけて隣接する榊海塚遺跡とともに調査され、縄文時代中期中葉から後葉、古墳時代、平安時代の住居址が発見されている。

3. 調査区の土層について

図示した土層は、中区及び北西区におけるセクション図である（第4図）。

遺構が集中する東側部分は調査区の約5分の1にあたり、近代の建物造成整地により削られたがローム層上に黒褐色土、赤褐色土、茶褐色土が厚さ約20cmのこっていた。色調は酸化鉄の含有量による違いであり、同一層と考えられる。遺物の包含はこの層中である。小堅穴の埋土は茶褐色土が基となり、そこに種々の含有物が見られ分別される。

遺構群の西側は砂礫層が堆積する河川敷ないしは河床で、調査区の約5分の4を占める。1層は造成時の盛土であり、2層及び3層は水田であった時の床土で人為的に敷かれている。4層以下は堆積土と考えられ、4層中に遺物の含有はほとんどない。5層以下は砂礫層のバリエーションで、酸化鉄や黄色土の混入による分別である。砂礫層中に遺物を含有するが、層位による遺物の時期差はなく、縄文中期～晩期及び弥生時代の遺物が5～14層中に混在する。また、カワラケが6、7層中に見られるが、この層中にも縄文土器が混在する。

地山と考えられるクリーム色に近い黄色の粘土に砂礫を含む層は不透水層で、8月の集中豪雨では調査区が池となり、この層上に湧き出してきた水が抜かずポンプアップをしたほどである。

（山田）

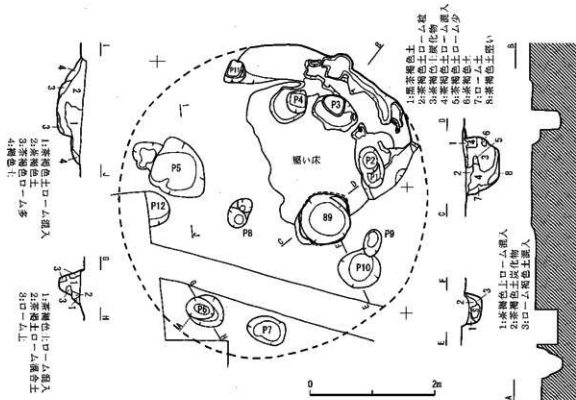
第3章 遺構と遺物

1. 住居址と遺物

(1) 14号住居址

調査の経過 本址は東区小壑穴群中央部やや西寄りに位置する。ローム層上面で遺構検出を行い、当初は小壑穴群の一部と捉えていたが、小壑穴を半截しようとしたところすぐにタタキ締められた床面が確認され、これを14号住居址とした。住居址南西部側は攪乱により床面はのこっていない。床面と認められたのは全体の3分の1程度であった。調査開始時点では、P1、P3、P5、P6、P7、P10は小壑穴として捉えていたが、14住の全体像を検証する過程で柱穴と確認されるようになった。炉の跡は見つからず、床に被熱した跡もない。土器は薄い覆土中にバラバラと散在していた。

遺構 壑穴の規模は直径約5mの円形の住居址と推定される(第6図)。壁は最大高6cmと低く、なだらかに傾斜し、残存部分は北東側に約1.5mと短い。P6、P7が入口に伴う施設の柱穴と考えられ、出入口は南西側と推定される。北東側2×2mの範囲にロームを堅くタタキ締めた床面を確認した。周溝は北東側側壁際に若干のこるのみである。柱穴と確認できるのは8基で円形に配列され、支柱穴はP1・P2、P3・P4、P5、P10と考えられる。P3、P4、P6では貼床が確認されている。また、P1、P3、P4は柱穴の中に石が入っていたが、根固めに使用されたものか、柱の高さ調節のような



第6図 14号住居址実測図 (1:60)

役割をしたものか確認できなかった。炉は見つかっていないが、P3、P4の間30×14cmの範囲に焼土が確認された。住居内にある89Pは中間が少し膨らむタル状をしており、西側部分に三日月状に貼床が検出された。

遺物 覆土はごく薄く、土器の在り方は小破片がほとんどで無文が多い。その中でも拓影図化できたものは第10図7である。小破片ながらも縄文時代中期中葉から後期前葉と推定される土器が多い。土器片は住居址中央部に多く、使用されていたものが残存するのではなく、住居施絶後の埋土中に混入したと考えられる。そのことから本址は縄文時代中期後葉以前と考えられるが、決定する材料が乏しいため所属時期は判断できない。

石器では磨製石斧(第14図60)、石片、原石破片が出土している。その他に骨片が検出された。これは焼けて粉々になっていたため、形を判定することが難しく、何の骨なのか不明である。

(宮坂)

2. 小竪穴と遺物

今回の調査では54基の小竪穴を検出し、すべて調査区東側のローム層の見られる部分にあり、小竪穴群と呼称する。大部分を占める河川敷には発見されていない。小竪穴群の西縁辺からすぐ傾斜面となり河川敷となる。すべて縄文時代の小竪穴で、中期中葉2基、中期後葉9基、後期前葉28基、不明15基である。

小竪穴は若干の疎密はあるが、広場のような部分はなく、時期ごとの分布を見ても散在して集中する様子はない。深さ別に見てみても特に集中する部分は見られず、これも散在する。唯一、41、46、57、99Pがほぼ等間隔に方形に並ぶ。ほかに方形、円弧状などの並びは見られない。

平成8、9年に行われた東方約100mの調査地点では、数基の小竪穴が住居跡間に散在し集中した有り方を示していないので、明らかに標相が異なる。住居跡群と小竪穴群の位置関係には不明なところがあり、縄文時代後期の住居跡が未発見である点も加えて集落構造を明らかにできなかった。今後の大きな課題である。

形状を見ると、平面形では円形・不整形円形11基、楕円・不整形楕円形14基、長楕円・不整形長楕円形20基、ほかに不整形6基、ダルマ形2基、不整形丸長方形1基で、円・楕円・長楕円形が中心となる。断面形状はタライ状33基と6割を占め、以下楕円・皿状各8基、鉢状・袋状各2基、不明1基となり、浅めの穴が多い。口径は60～100cm36基と7割を占め、100～150cm14基、200cm前後3基を数える。深さは整地等で一様とは言えないが、30cmまで34基、30～60cm16基、70cm以上3基、不明1基となり、ここでも浅めの穴が多いことがわかる。

これらの小竪穴はその内容から4つに分類でき、A類：一括土器を伴う、B類：集石を伴う、C類：焼土・骨片を伴う、D類：炭化物を多く含むである。次項から各類について記述を進めていく。

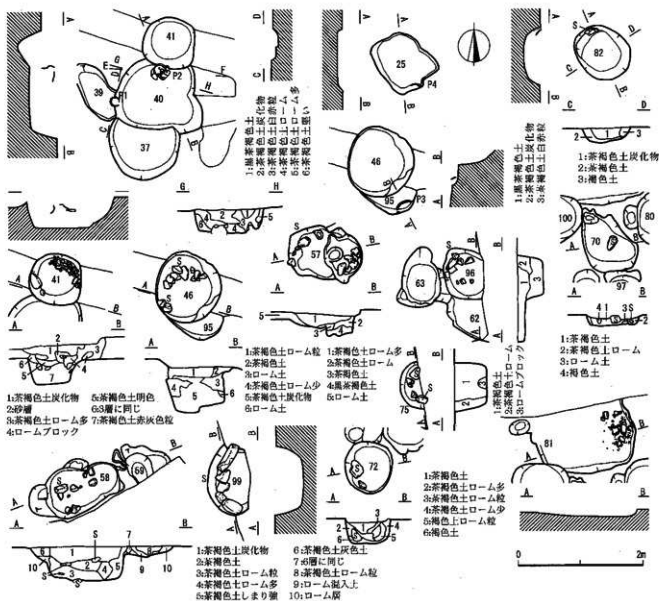
(1) A類 一括土器を伴う小竪穴 25P・40P・95P・82P

25P 小竪穴群南西部にあり、口径114×80cmの平面不整形丸長方形を呈し、深さ9cmを測る。付近は整地により削られごく浅い。第9図4の土器は口縁部分で、25P南東壁際に逆位で出土した。

整地の時に口縁以下をすべて壊されたのであろう。埋没状態も不明である。

40P 小竪穴群南東部にあり、口径146×122cmの平面不整形円形を呈し、深さ47.5cmを測る。南で37P北で41Pと重複する。埋土状態から41P古→40P新、37P古→40P新と考えられ、37Pと41Pの新旧関係は不明である。40Pには第9図1と2の2個体のほぼ完形の一括土器が出土し、1は西壁際の縁に正位で出土し、口縁の一部を欠いている。2は41Pとの境付近に逆位の傾いた状態にあり東側の下に平石が置かれていた。整地時に底部～胴部の一部を壊されている。2個体ともに40Pに伴うか明確ではなく、40P自体が2基の重複と見ることもできる。埋没状態を見ると2基の重なりにより複雑な埋没状態を示し、2個ともそれぞれ一挙に埋められたと考えた方が理と思われる。

95P 小竪穴群中央南にあり、46Pと重なるため残存部の計測で口径80×34cmの平面長楕円を呈すると思われ、深さ7.4cmを測る。これも整地により削られ、南東壁際で出土した第9図3も口縁部が逆位でのこるほかは失している。46Pとの新旧関係は、埋土状態から95P新、46P古である。



第7図 小竪穴実測図その1 (1:60)

A類は25・40・95Pと82Pの二つに細分される。25・40・95Pは所謂「裏被り」の小竪穴で縄文時代後期に所属する。それに対し82Pは、土器が縦に埋設されて「裏被り」とは言えず、その用途・性格については不明である。

(2) B類 集石を伴う小竪穴 41P・46P・57P・58P・70P・72P・75P・96P・99P

41P 小竪穴群中央南東寄りにありA類の40P北に重複する。口径96×86cmの平面円形を呈し、深さ53.4cmの桶状となる。長さ10cmを越える大きめの石がまばらに南壁沿いにあり、10cm以下の石が北東壁際に無作為に詰め込まれている。これらは小竪穴中位のレベルに上下約25cmの幅に見られる。埋土の状態はほぼ一層で一挙に埋められたと思われる。

46P 小竪穴群中央南にありA類95Pと重複する。口径114×110cmの平面円形を呈し、深さ76.5cmの桶状となる。石は北～西～南西の壁際に弧状に並び、ほとんど10cmを越える大きめの石を縦横に組み合わせて使っている。小竪穴の中位やや上のレベルに上下幅約20cmの厚みを測る。埋土は下部はほぼ一層で、中位～上部にはドーナツ状にローム土を混入した土(3、4層)で埋めている。中央の柱の周囲を固めているかのように、石のレベルとほぼ合致する。

57P 小竪穴群中央やや北東寄りにあり、口径122×88cmのダルマ形を呈し深さ85.5cmの桶状を呈する。石は西壁と南東壁に並べられたようにあり、10～20cmの大きさの石が使用され、小竪穴下部に約20cmの上下幅をもつ。南東壁際の石は押し詰められた様子がある。埋土は周囲から一挙に埋め戻した様子が見えてとれる。

58P 小竪穴群中央やや北東寄りにあり57Pの北に隣接する。口径124×78cmを測る。2基の小竪穴が重なり平面ダルマ形を呈し、深さ57.5cmのタライ状となる(西側をA、東側をBとする)。石は58P.Aでは高い位置に南壁際と中央付近に相対するように置かれ、58P.Bにおいては北西部に置かれている。石は5～20cmの大きさのものが使われ58P中位にある。埋土は一挙ないしは短時間に埋められたと考える。A、Bの新旧はセクションで見ても判断がつかなかった。

70P 小竪穴群北西部にあり周囲に小竪穴がやや密集する。口径122×62cmの不整形を呈し、深さ22cmと浅くタライ状となる。70Pの石はほかと違い中央に20×10cmの石がやや傾斜をもつて置かれている。埋土はほぼ一層である。同様の状況は14住P10で見られる。

72P 小竪穴群北側のほぼ中央にあり、口径84×80cmの平面円形を呈し、深さ41cmのタライ状となる。石は南西壁際に2個あるが、壁に沿い72P坑底上4cmにある。ローム粒を多く含む埋土第2層をのこし掘り下げたところ、石の東側に径約40cmの円筒状の穴となった。セクションではうまく捉えられなかったが、これは柱痕である可能性がある。

75P 小竪穴群北東部にあり、土管埋設溝に東半分を削られている。残存部は、口径74×34cmあり楕円形を呈すると思われる、深さ51cmの桶状となる。石は壁に沿って円弧状に並び10～20cmの石が使われている。75P内中位からやや下部に約15cmの上下幅をもつ。埋土は南壁際に縦にローム粒を混入する茶褐色土があるが、大部分は茶褐色土一層でほぼ一挙埋没と考える。

96P 小竪穴群東縁辺北寄りにあり土管の埋設溝に一部削られている。口径92×70cmのこり平面楕円形を呈すると思われる、深さ45.5cmのタライ状となる。石は5～20cmの大きさに径約60cmのドーナツ状に見られ、中央に径約30cmの石のない部分がある。上部～下部まで全層に散在し、あ



図1：整理No / 40P-2
遺物 No / 83.7129.17.40P
出土状態 / 40P西端の埋土層中に

正位
時期 / 縄、後期前葉Ⅰ～Ⅱ
高さ / 8.3cm
口径 / 15.7cm
胎土 / 細砂やや少なめ。黒みがかった赤褐色を呈しやや堅緻
整形内 / 粗いヘラミガキ
整形外 / ミガキ
文様 / 口縁部8の字捺押4か所。頸部9か所。横位縁帯には先丸のヘラ状施文具による押印で刻む。口縁内側は凹形連続刺突をし。沈線はヘラ状施文具による

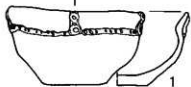


図3：整理No / 96P-1
遺物 No / 83.7J28.16.96P

出土状態 / 96P南東部に逆位
時期 / 縄、後期前葉Ⅰ～Ⅱ
高さ / (4.8cm)
口径 / (27.4cm)
胎土 / 細砂。雲母少量含む。茶褐色を呈し堅緻

整形内外 / ていねいなヘラナデ
文様 / 口唇の指痕押印4か所か。外面無文。内面はヘラ状施文具による横C字状沈線。横位沈線と短沈線が備われる



図4：整理No / 25P-1

遺物 No / 83.7127.9.25P
出土状態 / 25P南東壁部に逆位

時期 / 縄、後期前葉Ⅰ～Ⅱ
高さ / (3.5cm)

胎土 / 細砂。雲母微細片多く含む

整形内外 / ミガキに近いていねいなヘラナデ

文様 / 口唇の舌状指痕押印は数不明。波状縁で穿孔する。垂下する細縁帯上の連続押印はヘラないしは丸棒状の施文具を使用。内面は、ヘラ状施文具により同心内環文。横一条の沈線。斜方向の短沈線を描く

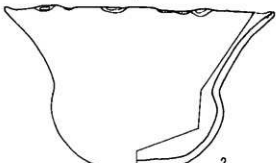
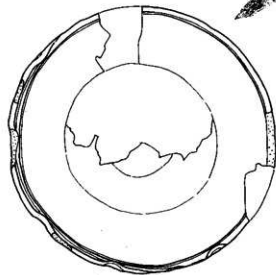


図2：整理No / 40P-1

遺物 No / 83.7129.17.40P
出土状態 / 40P北西部上半部層中に斜めに逆位

時期 / 縄、後期前葉Ⅰ～Ⅱ

高さ / 16.8cm

口径 / 28.4cm

胎土 / 細砂。雲母を含む。くすんだ褐色を呈しやや堅緻

整形内 / 頸部上はミガキ横方向。頸部下は粗い横のヘラナデ

整形外 / 口縁部から胴上半は横のミガキ。胴下半は縦。横のミガキ

文様 / 無文。口唇部は指痕押印が推定10か所付き。口縁内側は先丸の施文具による深い沈線



図5：整理No / 82P-1

遺物 No / 83.7024.5.82P

出土状態 / 82P北西壁部に沿うように縦に埋設

時期 / 縄、中期後葉Ⅱ～Ⅲ

高さ / (18.0cm)

胎土 / 細砂。雲母を含む。赤褐色を呈しやや堅緻

整形内 / 粗いナデ

文様 / 縁状太沈線は浅く、先弧状の施文具による

備考 / 内側に灰化物付着する

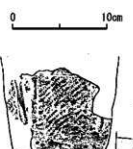


図6：整理No / 81P-1

遺物 No / 83.7026.8.81P

出土状態 / 81P内に破片散在

時期 / 縄、中期後葉Ⅱ～Ⅲ

高さ / (8.8cm)

胎土 / 細砂。淡い赤褐色を呈し堅緻

整形内 / ナデ

文様 / 先の尖った施文具により隆帯部の垂下する波状沈線と横位の沈線が備われる。地文はLR縄文

備考 / 内側全面にスリ付着が見られる

第9図 小堅穴出土土器実測拓影図(1:4)

るレベルにまとまることはない。埋土は上下二層に分かれ一挙埋没と思われる。

99P 小竪穴群東縁辺部はほぼ中央にあり、土管埋設溝に東半分ほど削られている。残存は口径90×46cmで平面長楕円を呈すると思われる、深さ36.8cmのタライ状となるが、本址もゴミ穴内にあり元はかなり深い穴だったと思われる。石は30～40cmの大ききで円弧状に壁に沿って並べられ、坑底近くまで達し厚みもある。埋土は一層だが残存が浅いため埋設状況は明確でない。

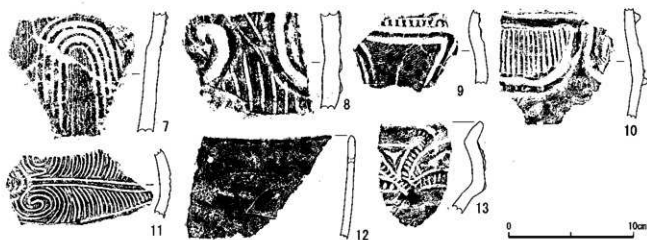
B類は集石を伴うが、70P以外は壁際に沿うように石が配され、石の大きさに違いはあるものの内側が抜ける。75Pのように石は少ないが、柱痕のように内側が抜ける例もあり、ほかに今回49Pに柱痕が見られている。

このような集石をどう考えるかは、柱材が検出されていないため、すぐに柱の根固め石とは言えない。状況的には、75Pの柱痕らしき状態や46Pの上部層に見られる三角形をした土層(3、4層)が見られること、また、40P、57Pに見られる詰め込まれたかのような石など、小竪穴内側に柱を建て、周囲に石を詰めて埋め戻した状況が感じ取れる。B類のうち、41、46、57、58、72、75、96Pはこの類ではないかと考える。

70Pについては性格は不明である。

99Pは比較的大きめの石が壁際に並べ配され、残存がわずかであったことから埋土状態を把握できずにいる。小竪穴の並びで見た時、41、46、57、99Pはほぼ等間隔で方形の各角に位置している。このことから、根固め石としてよいと考えている。

これらの小竪穴は前述以外には配列が見られず、何のための柱であったか明言できない。



| No. | 遺物番号 | 器形 | 部位 | 文様 | 内面整形 | 胎土 |
|-----|------------|----|-----|---------------------------|--------|---------|
| 7 | L27.26.14F | 深鉢 | 胴部 | 逆U字状に隆帯が4本 隆帯以外は縦位沈線 | 横方向のナデ | 白色粘土多 |
| 8 | H29.4.31P | 深鉢 | 胴部 | 隆帯上に沈線で渦巻き ヘラ状施文具による沈線 | ナデ | 細砂 |
| 9 | J29.9.40P | 深鉢 | 胴部 | 隆帯上に押圧による沈線 隆帯と沈線により区画内織文 | ナデ | 細砂 |
| 10 | L26.23.85P | 深鉢 | 胴部 | 楕円形 そのまわりは織文 | 横方向のナデ | 金雲母多 |
| 11 | M29.18.62P | 鉢 | 胴部 | 沈線による区画 渦巻状の沈線 | 横方向のナデ | 黒雲母が少 |
| 12 | M29.18.62P | 鉢 | 口縁部 | 補修孔と思われる孔 | 横方向のナデ | 灰色、白色粘土 |
| 13 | M27.18.65P | 深鉢 | 口縁部 | 隆帯上に押圧による沈線 区画内沈線 三叉文 | 横方向のナデ | 細砂 |

第10図 14号住居址・小竪穴山上土器拓影図(1:3)

(3) C類 骨片、焼土を伴う小竪穴 81P

81P 小竪穴群北辺西側にあって、北半分を削られている。残存部の口径 170×106 cm の不整隅丸長方形を呈し、深さ 14 cm と浅く皿状の小竪穴である。

小竪穴の東部分に拳大の石と散在する焼土、集中する骨片が検出された。81P 検出段階ではここに石と土器片がややまとまってあり、土器を取り除いたところ下に骨片と焼土が南北 70×東西 50 cm の楕円形に現れた。石は散在し圓状には見られず、焼土は粒または小さなブロックでありここで火が焚かれた様子はなく、形がわかる骨片はほとんどなかった。その中で形のある骨を見ると中空で細く、人骨ではない。骨片と焼土は石の下にもあり、坑底直上まで見られた。坑底も被熱した形跡はなく、ここが炉とは考えられない。用途の不明な小竪穴である。

(4) D類 炭化物を多く含む小竪穴 65P

65P 小竪穴群中央北寄りにあり、口径 134×118 cm の平面楕円形を呈し、深さ 29 cm のタライ状となる。65P 検出段階で埋土中に多量の炭化物が含まれ、掘り進めたところ南東部分に焼土を混入した多量の炭化物が検出された。これらの層は小竪穴南東縁から中央に向かい三角堆土のようにあったが、壁や底に被熱した形跡はなく、焼土も粒またはブロックであった。検出段階で炭化物の含有の多さで小竪穴を確認しているように、何らかの意図をもって炭化物の含有する土で 65P を埋めていることは明らかである。埋没の様子も 1 層を一挙に埋めていると思われる。

本址は火焚きをした後、穴を掘って後始末をしたのであろうか、その性格は不明である。

(5) その他

その他の小竪穴については特記すべき様相はなく、個々の性格については不明なものが多い。巻末に小竪穴一覧表を掲載した。参照願いたい。

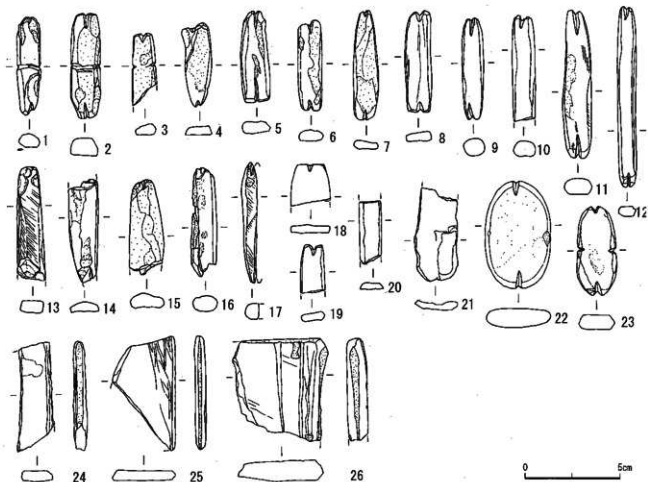
(山田)

3. 遺物

(1) 石器

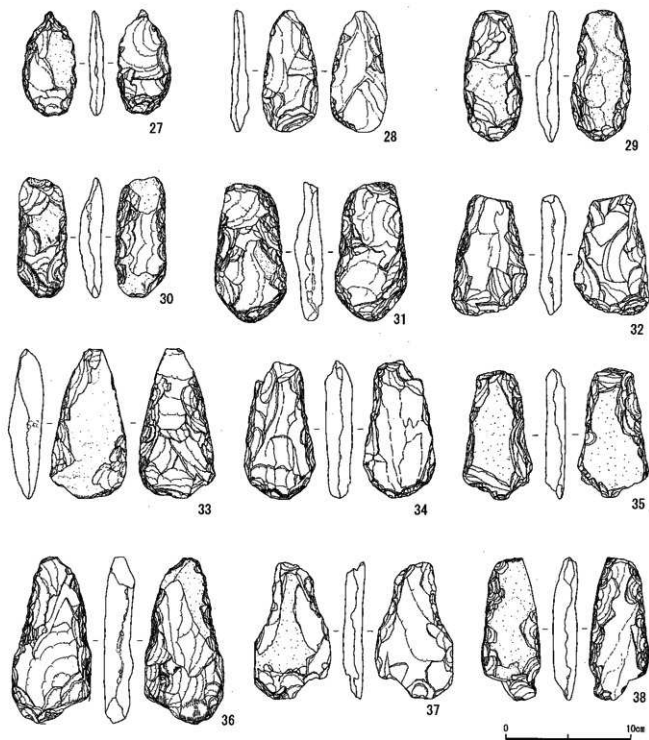
石器や剥片の分布に集中して見られる地点はなく、遺物包含層中に散在して出土している。発掘面積がそれ程広くはない点を考慮すると出土した石器の量は多く感じられる。出土した石器の点数は第 1 章の第 2 表に記載したので参照して頂き、本遺跡から出土した石器について注目される点について記述することとした。

小形の剥片石器(写真 15～24)は、石材に黒曜石を主体として、その他に少数ながらチャート、頁岩、ハリ買安山岩(下呂石)を用いて加工されている。黒曜石の色調は茶系の透明色と黒系の透明色の二つが主流であるが、青みのある「鯖」のような光沢をもった黒曜石も見られる。点数を検討する限りでは、石鏃や石鏃未製品の量が多く、石鏃製作址の存在も推測されるが、ほかの石器の組成や各器種の属性や特徴を分析するのが不十分だったため、判断は難しい。また、全体的に小形であるためか、両極打法が盛んに用いられたと思われる「両極刺鏃を有する石器・剥片」の量が、剥片に次いでほかの石器に比べて群を抜いて多量である点も注目される。



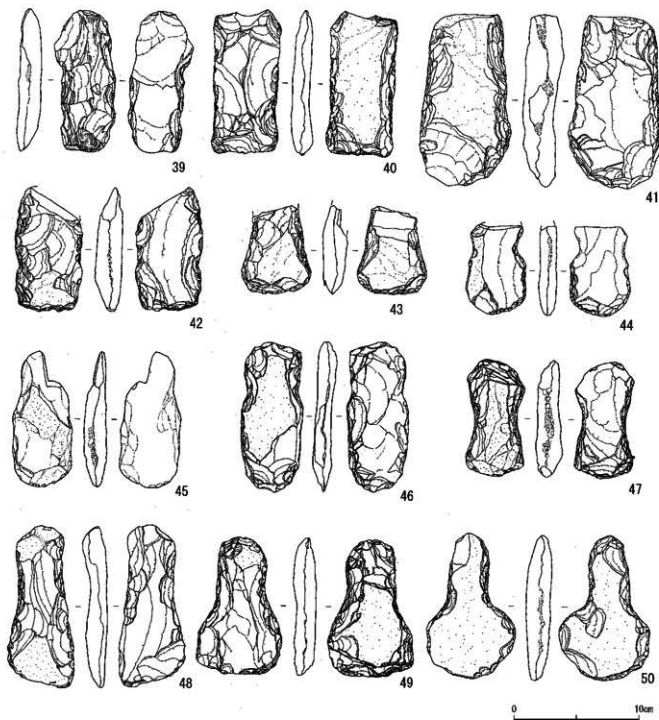
| No. | 遺物番号 | 遺物名 | 石材 | 長(mm) | 幅(mm) | 厚(mm) | 重(g) | 備考 |
|-----|---------------|-------|----|--------|--------|--------|--------|--------------------------|
| 1 | K24.1097 | 切れ目石錘 | 泥 | 51.5 | 12.2 | 7.2 | 5.1 | 長軸-短軸に切れ目。短軸は片面に溝状に切れ目あり |
| 2 | N23.119474 | 切れ目石錘 | 泥 | 55.5 | 15.1 | 9.1 | 13.9 | 長軸-短軸に切れ目。短軸側部に溝がまわる |
| 3 | M26.3茶初 | 切れ目石錘 | 泥 | (37.4) | (12.9) | (5.4) | (3.7) | 長軸-短軸に切れ目 |
| 4 | G23.19474 | 切れ目石錘 | 泥 | 43.7 | 15.5 | 4.8 | 4.3 | 長軸に切れ目 |
| 5 | N23.79474 | 切れ目石錘 | 泥 | 48.0 | 14.7 | 6.5 | 7.3 | 長軸に切れ目、側面に溝り切り痕 |
| 6 | J23.179474 | 切れ目石錘 | sh | 48.0 | 12.4 | 6.1 | 6.0 | 長軸に切れ目 |
| 7 | F16.79474 | 切れ目石錘 | 泥 | 57.9 | 13.1 | 5.7 | 6.5 | 長軸に切れ目 |
| 8 | L23.119474 | 切れ目石錘 | 泥 | 53.4 | 13.8 | 5.3 | 6.8 | 長軸に切れ目、側面に溝り切り |
| 9 | I23.189474 | 切れ目石錘 | 泥 | 53.7 | 11.0 | 9.2 | 8.9 | 長軸に切れ目 |
| 10 | M29.25.61P | 切れ目石錘 | 泥 | (55.5) | (12.0) | 8.1 | (8.0) | 長軸に切れ目 |
| 11 | F25.79474 | 切れ目石錘 | 泥 | 78.4 | 14.9 | 8.8 | 15.9 | 長軸に切れ目 |
| 12 | L28.8.58P | 切れ目石錘 | sh | 95.5 | 9.7 | 5.8 | 10.0 | 長軸に切れ目 |
| 13 | J29.6.40P | — | 泥 | (60.6) | (14.2) | (7.2) | (9.3) | 切れ目は施されず、未製品か? |
| 14 | N28.7茶初 | — | 泥 | (55.3) | (15.3) | (6.1) | (6.4) | 未製品 |
| 15 | O22.127079474 | 切れ目石錘 | 泥 | (50.1) | (18.0) | (8.0) | (9.0) | 長軸の一方にわずかな切れ目痕のこす |
| 16 | I17.47079474 | 切れ目石錘 | sh | (57.6) | 13.7 | 8.1 | (8.2) | 長軸に切れ目 |
| 17 | J30.10P1 | 切れ目石錘 | 泥 | 63.7 | (7.6) | (8.9) | (5.6) | 長軸の切れ目 |
| 18 | M24.387074 | 切れ目石錘 | 泥 | (21.5) | (20.7) | (5.0) | (3.7) | 長軸の切れ目 |
| 19 | L27.3茶初 | 切れ目石錘 | 泥 | (25.4) | (13.2) | (5.1) | (3.7) | 長軸の切れ目 |
| 20 | I24.1茶初 | — | 泥 | (33.0) | (11.6) | (4.4) | (2.2) | |
| 21 | H16.77079474 | 切れ目石錘 | 片 | (49.2) | (23.4) | (8.2) | (7.8) | 長軸の切れ目 |
| 22 | F24.69474 | 礫石錘 | 砂 | 56.9 | 34.9 | 10.0 | 30.2 | |
| 23 | K24.47074 | 礫石錘 | 泥 | 47.0 | 20.8 | 7.7 | 12.5 | |
| 24 | M27.1.0茶初 | — | 泥 | (57.7) | (20.1) | (8.2) | (10.6) | 素材を作り出したのみの未製品 |
| 25 | H15.17079474 | 石錘原石 | 泥 | (50.1) | (33.3) | (6.2) | (15.7) | |
| 26 | H15.57079474 | 石錘原石 | sh | (53.9) | (50.2) | (11.0) | (41.0) | |

第11図 石錘類実測図 (1:2)



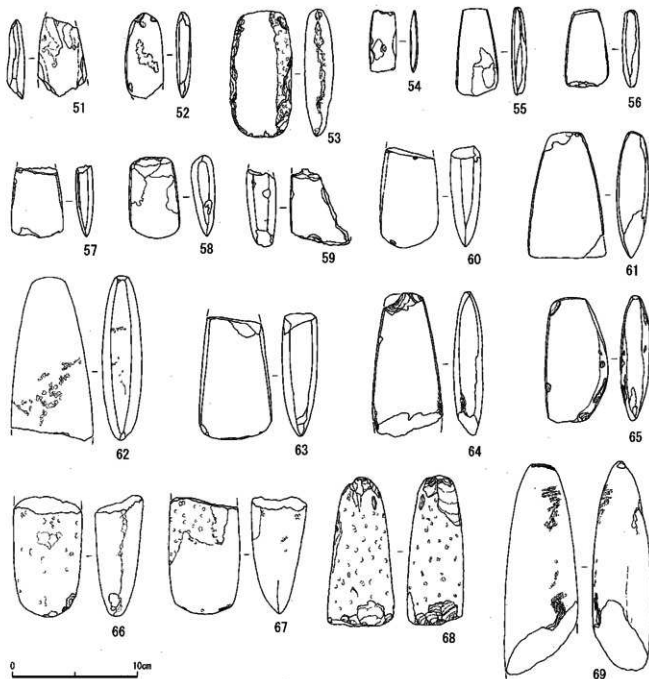
| No. | 遺物番号 | 遺物名 | 石材 | 長(cm) | 幅(cm) | 厚(cm) | 重(g) | 備考 |
|-----|--------------|------|----|--------|-------|-------|---------|-----------|
| 27 | O23.10700944 | 打製石斧 | 頁 | 8.3 | 4.3 | 1.1 | 42.0 | |
| 28 | 1T.1P1 | 打製石斧 | 緑変 | 9.6 | 4.5 | 1.3 | 60.6 | |
| 29 | H16.67000944 | 打製石斧 | 頁 | 10.4 | 4.7 | 1.7 | 99.5 | 短楕形 |
| 30 | H25.5茶77 | 打製石斧 | 粘 | 9.6 | 4.0 | 1.7 | 88.4 | 短楕形 |
| 31 | E23.1P7 | 打製石斧 | 砂変 | 11.1 | 5.7 | 2.0 | 153.2 | |
| 32 | J23.3P7 | 打製石斧 | 泥 | 8.5 | 5.9 | 1.9 | 124.7 | |
| 33 | L26.6茶77 | 打製石斧 | 頁 | 12.0 | 6.0 | 2.5 | 201.0 | 片面に自然面のこす |
| 34 | 9T.1177944 | 打製石斧 | 粘 | (11.0) | 5.7 | (2.2) | (162.4) | |
| 35 | Z139 | 打製石斧 | 鹹変 | 10.2 | 5.6 | 1.4 | 121.5 | |
| 36 | N24.239447 | 打製石斧 | 泥 | (13.5) | (6.3) | 2.2 | (225.5) | |
| 37 | P23.109447 | 打製石斧 | 頁 | 10.9 | 6.2 | 1.4 | (111.4) | |
| 38 | N23.89447 | 打製石斧 | 緑凝 | (11.2) | (4.7) | (1.9) | (136.9) | |

第12図 打製石斧実測図 その1 (1:3)



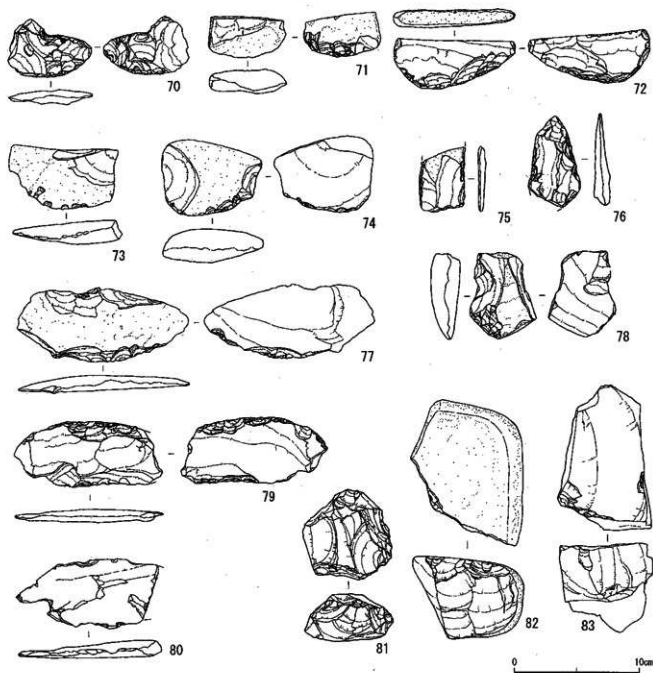
| No. | 遺物番号 | 遺物名 | 石材 | 長(cm) | 幅(cm) | 厚(cm) | 重(g) | 備考 |
|-----|-----------|------|----|--------|-------|-------|---------|-----------------|
| 39 | G21.49号ナシ | 打製石斧 | 泥 | 11.4 | 4.5 | 1.5 | 110.2 | 刃部付近片面の自然面に擦痕あり |
| 40 | H25.18号ナシ | 打製石斧 | 頁 | (11.4) | 5.4 | 1.6 | (129.3) | 矩形片面に自然面のこす |
| 41 | F17.57号ナシ | 打製石斧 | 燧岩 | (13.7) | (7.3) | 2.8 | (386.8) | |
| 42 | I29.22号 | 打製石斧 | 砂 | (9.9) | 5.3 | 2.1 | (125.2) | |
| 43 | G24.10号ナシ | 打製石斧 | 頁 | (7.1) | 5.5 | (1.9) | (84.3) | 楕形 |
| 44 | G20.49号ナシ | 打製石斧 | 砂 | (7.2) | (4.8) | (1.3) | (64.4) | 内側縁にノッチ入る |
| 45 | J25.76号 | 打製石斧 | 頁 | (10.8) | 4.6 | 1.7 | (104.0) | |
| 46 | I25.22号ナシ | 打製石斧 | 頁 | 11.9 | 4.9 | 1.4 | 120.5 | 両側縁にノッチ入る |
| 47 | N24.19号ナシ | 打製石斧 | 砂 | 9.5 | 4.6 | 2.0 | 109.0 | 分銅形 |
| 48 | 73 | 打製石斧 | 頁 | 13.0 | 6.3 | 1.6 | 122.5 | 側縁内溝 |
| 49 | J24.11号ナシ | 打製石斧 | 粘 | 10.9 | 6.8 | 1.8 | 138.2 | 楕形 |
| 50 | Z35号ナシ | 打製石斧 | 砂 | 11.7 | 7.2 | 2.0 | 165.4 | 楕形片面に自然面のこす |

第13図 打製石斧実測図 その2 (1:3)



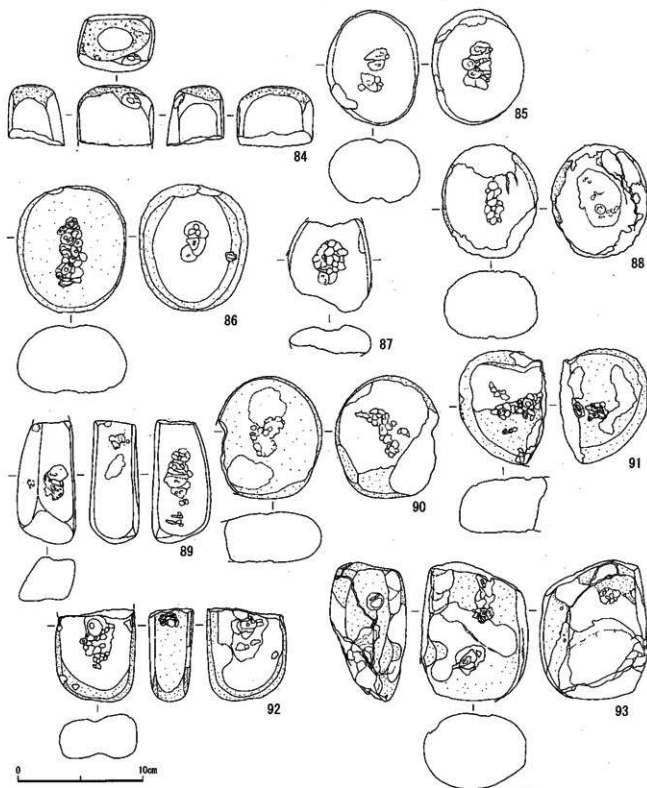
| No. | 遺物番号 | 遺物名 | 石材 | 長(cm) | 幅(cm) | 厚(cm) | 重(g) | 備考 |
|-----|-------------|------|----|--------|-------|-------|---------|--------------------------|
| 51 | R16.3944 | 磨製石斧 | 緑泥 | (6.3) | (2.8) | (1.2) | (42.3) | 素材の剥離面を器面にのこす |
| 52 | F18.5707944 | 磨製石斧 | 蛇 | 8.5 | 2.0 | 1.1 | 41.8 | 刃にほれあり |
| 53 | G18.4707944 | 磨製石斧 | 蛇 | 10.1 | 4.9 | 2.2 | 189.0 | 製作途中、片面のみ磨かれ器面整形の敲打痕をのこす |
| 54 | F19.827 | 磨製石斧 | 緑泥 | (4.9) | 2.1 | 6.0 | (11.2) | |
| 55 | H19.6207944 | 磨製石斧 | 頁 | (7.0) | (2.2) | 1.1 | 45.8 | |
| 56 | D12.267 | 磨製石斧 | 緑泥 | 6.1 | 3.4 | 1.2 | 45.5 | 両面磨しい |
| 57 | E16.0944 | 磨製石斧 | 蛇 | (5.6) | 4.1 | 1.3 | (53.9) | |
| 58 | L23.10944 | 磨製石斧 | 緑泥 | 8.5 | 3.9 | 1.8 | 80.5 | |
| 59 | D20.3944 | 磨製石斧 | 蛇 | (6.4) | (4.4) | (2.3) | (84.8) | |
| 60 | K25.23.544 | 磨製石斧 | 肉 | (7.9) | 4.5 | (2.4) | 156.7 | |
| 61 | G20.11944 | 磨製石斧 | 蛇 | 10.0 | (6.0) | (2.6) | (943.5) | 刃部破損 |
| 62 | L25.21944 | 磨製石斧 | 頁 | 13.1 | 6.5 | 3.4 | (309.6) | |
| 63 | F19.2944 | 磨製石斧 | 砂 | (9.8) | 5.8 | 2.8 | (267.4) | |
| 64 | G21.3944 | 磨製石斧 | 蛇 | 11.4 | 5.5 | 2.3 | (271.3) | 刃部破損 |
| 65 | Z22 | 磨製石斧 | 蛇 | 10.0 | 5.0 | 2.3 | 208.5 | 左右非対称 |
| 66 | M22.10944 | 磨製石斧 | 緑泥 | (9.8) | (5.6) | (3.8) | (320.5) | |
| 67 | D25.1944 | 磨製石斧 | 緑泥 | (9.4) | (5.7) | (4.4) | (360.6) | 器面整形の敲打痕をのこす |
| 68 | N23.5707944 | 磨製石斧 | 緑泥 | (11.9) | (5.4) | (4.4) | (455.2) | 器面整形の敲打痕をのこす |
| 69 | M24.5707944 | 磨製石斧 | 緑泥 | (16.9) | (5.9) | (4.6) | (659.4) | |

第14図 磨製石斧実測図 (1:3)



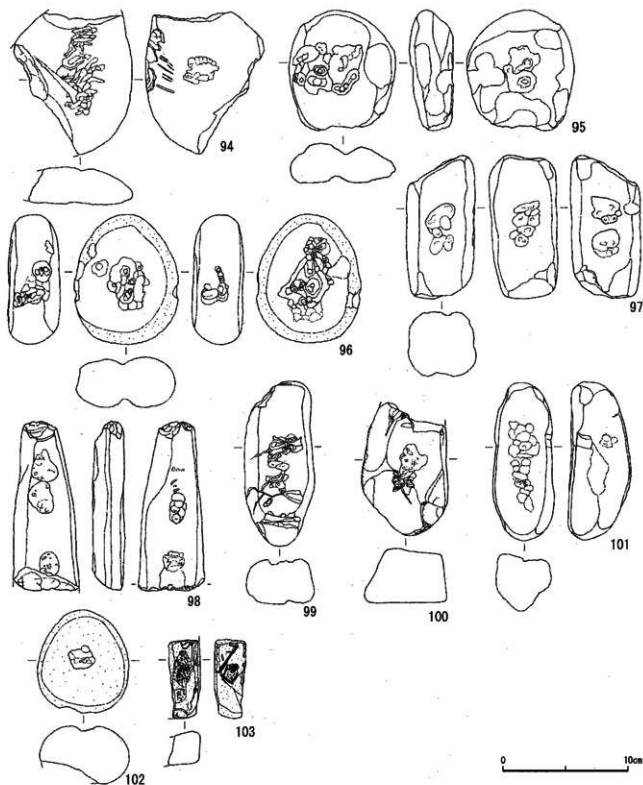
| No. | 遺物番号 | 遺物名 | 石材 | 長(cm) | 幅(cm) | 厚(cm) | 面(α) | 備考 |
|-----|--------------|-------|----|-------|--------|-------|--------|-------------|
| 70 | E18.5700794 | 不定形石器 | 頁 | 4.8 | 6.8 | 1.2 | 90.1 | 石能未製居か? |
| 71 | Z3189447 | 不定形石器 | 泥 | 3.3 | 6.1 | 1.7 | 43.6 | |
| 72 | J24.279447 | 小定形石器 | 泥炭 | 3.9 | 9.7 | 1.2 | 72.1 | |
| 73 | H28.10E7 | 不定形石器 | 砂 | (5.3) | (8.6) | (1.6) | (76.1) | |
| 74 | F28.4 | 不定形石器 | 砂 | 6.1 | 7.9 | 2.5 | 136.6 | |
| 75 | H21.09447 | 不定形石器 | 泥 | (5.2) | (3.6) | (5.0) | (12.4) | |
| 76 | J23.309447 | 不定形石器 | 頁 | (4.1) | (7.2) | (1.3) | (32.1) | |
| 77 | N24.169447 | 不定形石器 | 頁 | 13.6 | 5.9 | 1.1 | 90.2 | |
| 78 | T9.24707 | 不定形石器 | 頁 | 5.1 | 6.9 | 2.1 | 78.6 | |
| 79 | 9T.1679447 | 不定形石器 | 頁 | 11.8 | 5.3 | 1.0 | 75.4 | 打製石片の可能性もあり |
| 80 | O28.17 | 不定形石器 | 泥炭 | (5.5) | (11.3) | (1.2) | (73.9) | |
| 81 | G24.29 | 石核 | 頁 | 7.2 | 7.5 | 3.7 | 236.8 | |
| 82 | F19.87079447 | 石核 | 砂 | 11.5 | 8.9 | 6.5 | 882.5 | |
| 83 | I16.77079447 | 石核 | 頁 | 11.5 | 7.5 | 7.0 | 672.0 | |

第15図 不定形石器・石核実測図 (1:3)



| No. | 遺物番号 | 遺物名 | 部分類 | 石材 | 長(cm) | 幅(cm) | 厚(cm) | 重(g) | 備考 |
|-----|-------------|-----|-----|----|--------|-------|-------|---------|-----------------------|
| 84 | P21.17 | 磨石型 | 磨石 | 安 | (4.7) | (6.0) | (4.4) | (205.2) | |
| 85 | N23.1.07bの付 | 磨石型 | 磨石 | 凝 | 9.1 | 7.3 | 5.3 | 430.7 | 凹み併存 |
| 86 | F23.1.38cの付 | 磨石型 | 磨石 | 交 | 10.3 | 8.6 | 5.5 | 634.5 | 凹み併存、磨食する下面に敲打による剥落あり |
| 87 | Z27.9.49f | 磨石型 | 磨石 | 安 | (7.4) | 6.6 | (2.4) | (128.0) | 凹み併存 |
| 88 | O22.0.94f | 磨石型 | 磨石 | 交 | 3.0 | 7.6 | 5.4 | 449.3 | 凹み併存 |
| 89 | Z37.9.47c | 磨石型 | 磨石 | 安 | (9.7) | 4.7 | (3.7) | (288.5) | 凹み併存 |
| 90 | I29.23.37P | 磨石型 | 磨石 | 凝 | 9.8 | (8.4) | (4.1) | (468.3) | 浅いアハタ状の凹み |
| 91 | G24.11.94c | 磨石型 | 磨石 | 砂 | 7.5 | 8.7 | 4.4 | (365.4) | 凹み併存 |
| 92 | L38.11.58f | 磨石型 | 磨石 | 凝 | (7.3) | (5.3) | (3.6) | (257.7) | 凹み併存 |
| 93 | H25.1.97bの付 | 磨石型 | 磨石 | 凝 | (11.5) | 8.4 | (6.0) | (284.4) | 凹み併存、受熱か? |

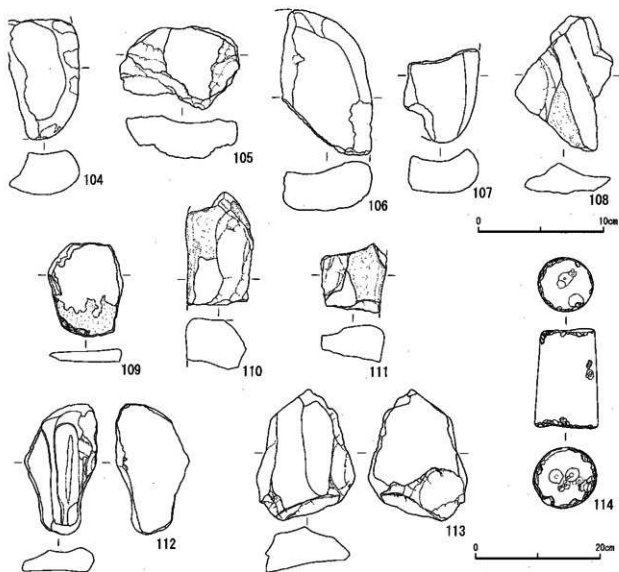
第16図 磨石類実測図 その1 (1:3)



| No. | 遺物番号 | 遺物名 | 細分類 | 石材 | 長(cm) | 幅(cm) | 厚(cm) | 重(g) | 備考 |
|-----|-------------|-----|-----|----|--------|-------|-------|---------|----------------------|
| 94 | 7T3E91' | 磨石類 | 磨石 | 安 | (11.4) | (9.4) | 3.2 | (362.0) | 凹み併存 |
| 95 | P21.18 | 磨石類 | 凹石 | 安 | (9.6) | 8.5 | 3.4 | (241.7) | |
| 96 | H18.387 | 磨石類 | 凹石 | 砂 | 10.3 | 8.2 | 4.1 | 490.2 | 磨食が著しく磨耗面不明確 |
| 97 | S6.10772 | 磨石類 | 凹石 | 安 | 11.5 | 5.4 | 5.3 | 527.5 | 磨食が著しく磨耗面不明確 |
| 98 | R7.913 | 磨石類 | 凹石 | 緑凝 | (13.4) | (5.3) | (2.6) | (249.6) | 下面に敲打痕か？ |
| 99 | G25.74747 | 磨石類 | 凹石 | 凝 | (13.2) | (5.5) | (4.0) | (399.8) | |
| 100 | I19.6707794 | 磨石類 | 凹石 | 砂 | (10.8) | (5.9) | (4.9) | (411.3) | 浅いアバタ状の凹み、側面一部に敲打痕あり |
| 101 | Z8 | 磨石類 | 凹石 | 安 | 12.8 | 4.9 | 4.7 | 383.1 | |
| 102 | N23.6707794 | 磨石類 | 凹石 | 安 | (8.2) | 7.2 | (4.6) | (276.0) | |
| 103 | 127.15茶切 | 磨石類 | 凹石 | 泥 | (6.3) | (2.8) | (2.8) | (78.5) | 浅いアバタ状の凹み、各面に打痕が散在する |

第17図 磨石類実測図 その2 (1:3)

さらに各器種ごとにサイズに注目して関連性を比較検討すると、原石と石核では、石核に大きめなものが多い。剥離痕から推定される剥片は平均3cm大で、小形の石鏃、石錐、微細剥離を有する剥片の剥離素材に対応する大きさで想定される。しかし残存する石核は量的には非常に少ない。一方、石核より小さめな原石は、そのものを素材に直接調整加工が施された石器が多く見られる。原石に対応した大きさとして認められるものは、石鏃未製品のブランクを含む成形段階の石器やスクレイパー類



| No. | 遺物番号 | 遺物名 | 石材 | 長(cm) | 幅(cm) | 厚(cm) | 重(g) | 備考 |
|-----|------------|-----|----|--------|--------|-------|----------|-------------------|
| 104 | F16.6片4 | 石皿 | 安 | (19.6) | (12.1) | (7.6) | (2258.0) | 側面に紋様が施されている可能性あり |
| 105 | F19.670片4 | 石皿 | 凝 | (19.0) | (13.0) | (6.6) | (1755.5) | |
| 106 | H25.1170片4 | 石皿 | 安 | (25.0) | (13.6) | (5.8) | (2860.0) | |
| 107 | Z20 | 石皿 | 安 | (15.0) | (11.8) | (7.4) | (1212.1) | |
| 108 | K24.149片4 | 砥石 | 砂 | (11.0) | (82.0) | (4.0) | (148.5) | |
| 109 | H16.570片4 | 砥石 | 安 | 15.0 | 11.9 | 1.8 | 507.8 | |
| 110 | N18.62片 | 砥石 | 砂 | (18.4) | (10.6) | (8.1) | (2343.5) | |
| 111 | Z389片4 | 砥石 | 砂 | (11.0) | (10.3) | (6.0) | (930.7) | |
| 112 | F19.570片4 | 砥石 | 砂 | 20.8 | 11.8 | 4.2 | 975.8 | |
| 113 | G13.129片4 | 砥石 | 砂 | 21.6 | 15.1 | 9.1 | 2263.9 | |
| 114 | E25.219片4 | 石棒 | 安 | 15.9 | 10.0 | 9.4 | 2213.8 | |

第18図 石皿・砥石・石棒実測図 (108は1:3、その他は1:6)

が想定される。そして原石の点数は多量である。本遺跡では、約3cm大の小粒の原石を主体に原石を素材に調整剥離作業を施して石器製作を行っていた特徴がある。剥片の大きさの大半が約1.5cm以下と小さい点も、前記の特徴を裏付けている。

各石器の特徴については、石鏃と石鏃未製品では、縄文時代中期後葉から後期前葉の土器を主体に晩期の土器片も出土している様子から、その時期に特徴のある有茎鏃や五角族などの存在を意識していたが、欠損品の中に2点見られるのみで、その他はすべて正三角形あるいは二等辺三角形の凹基無茎鏃であった。しかし、側縁はどんなに先の細い工具を用いて押圧調整を行ったのかと注視するような細かい鋸歯状をした石鏃が多く見られ、特徴と言える。石鏃の製作を視点に石鏃未製品を分析すると、成形段階72点(欠損17点、23%)→整形段階Ⅰ43点(欠損25点、58%)→整形段階Ⅱ27点(欠損品20点、74%)という結果が得られた。成形段階では、剥離作業が行き詰まり、放棄されたものが多く、整形段階では、剥離作業が進行するにつれ、薄く小形化するのに比例して剥離調整時の破損ミスが増し放棄されるものが増えるという結果が推定される。石鏃では、つまみとなる基部と棒状の機能部から成る丹念な類と棒状の機能部のみの類がわずかにあるが、大半は素材剥片の形状をのこしたまま、先端部のみを調整した類である。また、注視すべき石器では、石核よりサイズが小さく、自然の平坦な面を打面に、連続する打点や剥離面を有する横長形状の一群がある。剥離痕から推定される片のサイズは、素材剥片の生産には有効ではないサイズであり、石核とは考えられない。製作途中の石器未製品かあるいは石器(彫器)である可能性もある。

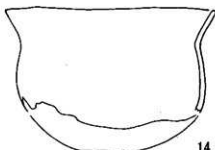
黒耀石以外の大形の石器は第11～18図に実測図と観察表を記載したので参照されたい。その中に特徴的な石器が2点ある。一つは砥石である(第18図112)。石を刻み縁を作り出し、縁の内側は平坦な皿状で磨耗している。現代の硯の皿部の幅を狭くしたような形状である。そして、端部にハケ口のような溝状の凹みを有する。裏面もツルツルに磨耗した平坦な面である。所属時期は不明である。もう一つは、石棒である(第18図114)。高さ約16cm、最大径10cmの大きさで、上面と下面の周縁を打ち欠いた後に磨耗し、各面にそれぞれ並んだ二つの凹みを有する。所属時期は不明である。なお、縄文時代後期の所産である切れ目石鏃28点が出土しているのも本遺跡の時代を裏付ける遺物である。

(河原)

(2) 土器

遺構外出土土器

北西区と小壜穴群の遺物包含層、河川敷砂礫層から出土している。河川敷砂礫層からの出土が多く、その中の中区南側と小壜穴群西側の砂礫層から集中的に出土している。小壜穴群の付近からの出土が多いことから土器が河川に向かって流出しているのか、また、廃棄されたのであろうか。旧大川の影響を受けてか無文の土器片や小破片が多く、整理作業中に接合された土器片が数点あったが、復原されるに至った土器はない。出土した土器は、縄文時代中期初頭から中世土器が確認され、縄文時代中期後葉から後期が多い。時期特定の判断に使用できるとされる土器や、文様がわかりやすい土器を中心に拓影図化した(第19～22図)。土器の文様についての詳細は拓影図下の土器観察表を参照されたい。縄文中期初頭から縄文晩期と思われる土器が出土しており、中でも縄文中期後葉から縄文後期前葉の土器が多く見られた。



14

図14：整理No / 遺構外-2

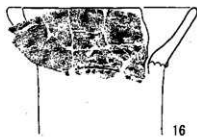
遺物 No / 83.7F16.8サレキ
 出土状態 / 砂礫層中に一括出土
 時期 / 縄、後期前葉Ⅰ～Ⅱ
 高さ / (12.8cm)
 口径 / 23.2cm
 胎土 / 細砂、灰褐色を呈しやや砥礫
 整形内外 / ややていねいな横ヘラナデ
 文様 / 無文
 備考 / 外面頸部下腹部にスス付着、
 内面腹下部にスス付着



15

図15：整理No / 遺構外-1

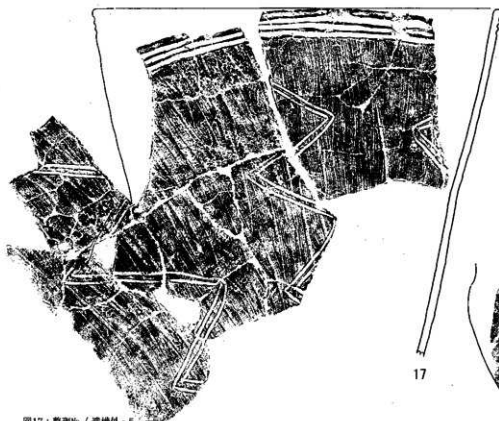
遺物 No / 83.7E17.2サレキ
 出土状態 / 砂礫層中
 時期 / 縄、晩
 高さ / (12.8cm)
 口径 / (10.6cm)
 胎土 / 細砂、石英、長石、雲母を少含む、
 灰褐色を呈しやや砥礫
 整形内 / ミガキ
 整形外 / ていねいなナデ。下部は劣化しザラ
 ついている
 文様 / 口縁部の横位隆帯上を丸棒の側面押
 圧で刻む
 備考 / 外面口縁部へ頸部炭化物付着、内面
 以下にスス付着



16

図16：整理No / 遺構外-3

遺物 No / 83.7H27.17茶カツ
 出土状態 / 少量であるが遺物集中の中に
 散在
 時期 / 縄、中期後葉Ⅰ
 高さ / (5.7cm)
 口径 / (20.0cm)
 胎土 / 細砂、透明粒少量含む。茶褐
 色を呈し砥礫
 整形内外 / ややていねいなナデ
 文様 / 頸部に半縦竹雲による押しき
 隆線



17

図17：整理No / 遺構外-5

遺物 No / 83.7M18.3サレキ
 出土状態 / 包含層中に広く散在
 時期 / 縄、晩期末
 高さ / (36.8cm)
 口径 / (43.4cm)
 胎土 / 細砂、雲母、石英、長石粒含む。褐色～
 赤褐色を呈し、やや砥礫
 整形内 / 粗いヘラミガキ
 文様 / 縦約1.4cmの12本1組の間歯状ないしはサ
 ラ状の工具による縦条痕を地文に、口縁
 の3本の横位線、垂下する2本1組のジグザ
 グ文は先丸のヘラ状道具により刻かれる

0 10cm

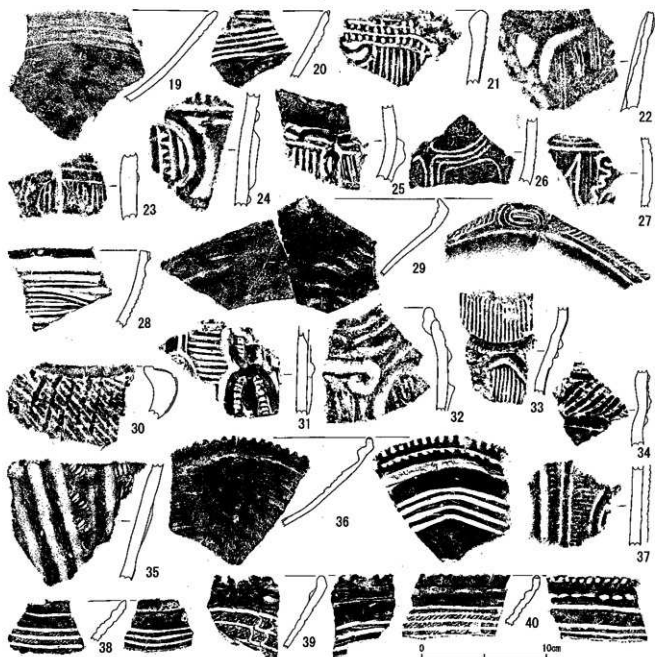


18

図18：整理No / 遺構外-4

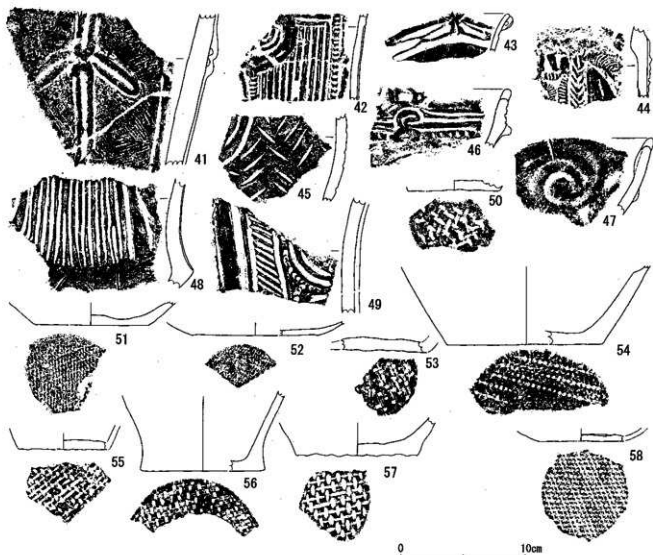
遺物 No / 83.7M14.1スナ
 出土状態 / 砂礫層中に一括破片バラけていた
 時期 / 縄、後期
 高さ / (7.5cm)
 胎土 / 細砂多く少量の雲母含む。赤色～灰褐色を呈し砥礫
 整形内外 / ナデ
 文様 / 無文
 備考 / 底部に網代痕あり、内面に輪積み接合痕が
 一部見られる。
 部分的に劣化してザラザラしている

第19図 遺構外出土土器実測図 (1:4)



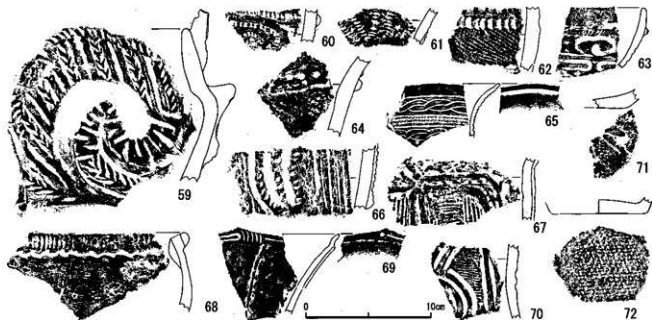
| No. | 遺物番号 | 器形 | 部位 | 文様 | 内面整形 | 粘土 |
|-----|---------|----|---------|----------------------------|------|--------------|
| 19 | S9.713 | 鉢 | 口縁～胴部上半 | 口縁部に4条の浅い沈線 | | 褐色で光る粒子 |
| 20 | T10.674 | 鉢 | 口縁部 | 口縁部に6条の沈線 | | 灰色で光る粒子 |
| 21 | F16.644 | 深鉢 | 胴部 | 隆帯上にヘラ状施文具による押圧 沈線 | | ナデ |
| 22 | Z4 | 深鉢 | 胴部 | 隆帯による区画 不均等に櫛状の施文具による沈線 | | 割落 白っぽい色 |
| 23 | T10.874 | 深鉢 | 胴部 | 隆帯による横位の区画 区画内は縦位の沈線 | | 横方向にナデ 細砂 |
| 24 | F23.174 | 深鉢 | 胴部 | 隆帯による区画 沈線 | | 細砂 |
| 25 | K23.170 | 深鉢 | 胴部 | 隆帯上に沈線 隆帯下に横位、縦位の沈線 | | 横方向のナデ 細砂 |
| 26 | G25.644 | 深鉢 | 胴部 | 平行沈線による区画 区画内は横文 | | ナデ 細砂 |
| 27 | G24.644 | 鉢 | 胴部 | ヘラ状施文具による沈線 | | ナデ 金雲母微量 |
| 28 | F24.344 | 鉢 | 口縁部 | 口縁部に小さなボタン状突起 | | ナデ 白いねいなナデ |
| 29 | G24.444 | 鉢 | 口縁部 | 口縁部内側に櫛状と斜状沈線 | | ナデ 雲母微量 |
| 30 | M16.53 | 深鉢 | 口縁部 | 格子状にソームン状粘土層貼り付け | | ナデ 白色粒子多 |
| 31 | H19.474 | 深鉢 | 胴部 | 隆帯による横内区画内にヘラ状施文具による沈線 | | ナデ 細砂 |
| 32 | F21.1 | 深鉢 | 胴部 | 隆帯上に沈線 隆帯による区画内沈線 | | ナデ? 細砂 |
| 33 | H19.474 | 深鉢 | 胴部 | 櫛形文が上下に重なる (踵り手文) | | ナデ 細砂 |
| 34 | J24.544 | 深鉢 | 胴部 | ソームン状の粘土層を格子状に貼り付け | | 横方向のナデ 黒雲母微量 |
| 35 | K21.944 | 深鉢 | 胴部 | 縦位の隆帯 隆帯と隆帯の間にまばらな短い沈線 | | ナデ やや滑き |
| 36 | L20.63 | 深鉢 | 口縁部 | 口縁部には波状 内側に先の丸い棒状施文具による刺突文 | | ナデ 白色粒子多 |
| 37 | L24.944 | 深鉢 | 胴部 | 隆帯による区画 区画内はヘラ状施文具による沈線 | | ナデ 白色粒子多 |
| 38 | H23.374 | 鉢 | 口縁部 | 4条の沈線 隆帯上に横文 内側は3の条状隆と横帯 | | 横方向のナデ 細砂 |
| 39 | L24.944 | 鉢 | 口縁部 | ヘラ状施文具による押圧 沈線 沈線の間は横文 | | 横方向のナデ 細砂 |
| 40 | M24.154 | 鉢 | 口縁部 | 隆帯上に横文 内側にヘラ状施文具による押圧刺突 | | ナデ 白いねいなナデ |

第20図 遺構外出土土器拓影図 その1 (1:3)



| No. | 遺物番号 | 器形 | 部位 | 文様 | 内面形状 | 胎土 |
|-----|----------|----|-----|------------------------|--------|---------|
| 41 | O23.3地付 | 深鉢 | 胴部 | 十文字状(トンボ?)の隆帯 | 横方向のナデ | 白色粒子多 |
| 42 | S14.1地 | 深鉢 | 胴部 | 隆帯による区画 区画内は沈線 隆帯上に押圧 | ナデ | 光る粒子 |
| 43 | P21.1地付 | 鉢 | 口縁部 | 隆帯上に沈線 小さな把手状の盛り上がりをもつ | 部分的に磨き | 白色粒子多 |
| 44 | R15.1地 | 深鉢 | 胴部 | 隆帯上に爪形押引 ヘラ状施文具による押圧沈線 | 横方向のナデ | 白色、黒色粒子 |
| 45 | P18.1地 | 深鉢 | 胴部 | ヘラ状施文具による斜沈線及びハの字状沈線 | 横方向のナデ | 細砂 |
| 46 | N16.6地付 | 鉢 | 口縁部 | 口唇部に突起 突起下に沈線による渦巻文 | 横方向のナデ | 粗砂 |
| 47 | N19.6地付 | 深鉢 | 口縁部 | 口縁部に大きな波状の膨らみ 隆帯による渦巻文 | ナデ | 粗砂 |
| 48 | Z14 | 深鉢 | 胴部 | 隆帯による区画 区画内は連続する押引文 | 横方向のナデ | 白色粒子 |
| 49 | Z23.9地付 | 深鉢 | 胴部 | 円形施文具による押引文 | 横方向のナデ | 金雲母多 |
| 50 | I19.3地付 | 深鉢 | 底部 | 網代底 | ナデ | 金雲母多 |
| 51 | G26.5地付 | 深鉢 | 底部 | 網代底 | ナデ | 粗砂 |
| 52 | F23.6地 | 深鉢 | 底部 | 網代底 | ナデ | 金雲母が少 |
| 53 | Z1 | 深鉢 | 底部 | 網代底 | ナデと沈線 | 金雲母 |
| 54 | J24.7地付 | 深鉢 | 底部 | 網代底 | ナデ | 金雲母多 |
| 55 | L22.3地付 | 深鉢 | 底部 | 網代底 | ナデ | 粗砂 |
| 56 | L24.8地付 | 深鉢 | 底部 | 網代底 | ナデ | 粗砂 |
| 57 | J23.13地付 | 深鉢 | 底部 | 網代底 | ナデ | 白色粒子多 |
| 58 | H25.6地付 | 深鉢 | 底部 | 網代底 | ナデ | 白色粒子多 |

第21図 遺構外出土土器拓影図 その2 (1:3)



| No. | 遺物番号 | 器形 | 部位 | 文様 | 内面整形 | 胎土 |
|-----|--------------|----|-----|-------------------------|--------|-------|
| 59 | L23.149a7914 | 深鉢 | 頸部 | 渦巻文 隆帯上にはハの字状、ジグザク状沈線 | 部分的に磨き | 白色粒子多 |
| 60 | K26.58a | 深鉢 | 胴部 | 隆帯西側に押引文 | ナデ | 細砂 |
| 61 | L26.1茶a | 深鉢 | 胴部 | 隆帯のまわりにへら状施文具による連続沈線 | ナデ | 白色粒子 |
| 62 | L26.4茶a | 深鉢 | 胴部 | 押引文 縄文 | ナデ | 細砂 |
| 63 | M25.1茶a | 深鉢 | 胴部 | 隆帯による区画 区画内は横位の沈線と押引文 | ナデ | 細砂 |
| 64 | M23.1a | 深鉢 | 胴部 | 平行沈線 縄文 | ナデ | 細砂 |
| 65 | N29.1a | 深鉢 | 胴部 | 隆帯上に先端がやや尖った棒状の施文具による刺突 | ナデ | 黄土多 |
| 66 | L27.15茶a | 深鉢 | 胴部 | 隆帯上に押圧による沈線 縦位の沈線 | 横方向にナデ | 細砂 |
| 67 | M23.1茶a | 鉢 | 胴部 | 隆帯上に沈線 横円形を楕くような沈線 | ナデ | 白色粒子 |
| 68 | N25.19.1a7a | 深鉢 | 口縁部 | 口唇部に隆帯その上に爪形文、下に波のような沈線 | ナデ | 白色粒子 |
| 69 | M29.1a | 鉢 | 口縁部 | 口唇部に沈線 隆帯が乗れる 内側に沈線、刺突 | 磨き | 白色粒子 |
| 70 | M29.1a | 鉢 | 口縁部 | 沈線 沈線によりできた隆帯上に縄文 内側に沈線 | 磨き | 金雲母 |
| 71 | M29.3茶a | 深鉢 | 底部 | 木葉痕 | ナデ | 黒色粒子 |
| 72 | K27.1a | 深鉢 | 底部 | 網代痕 | ナデ | 細砂 |

第22図 遺構外出土土器拓影図 その3 (1:3)

(3) 土製品・石製品

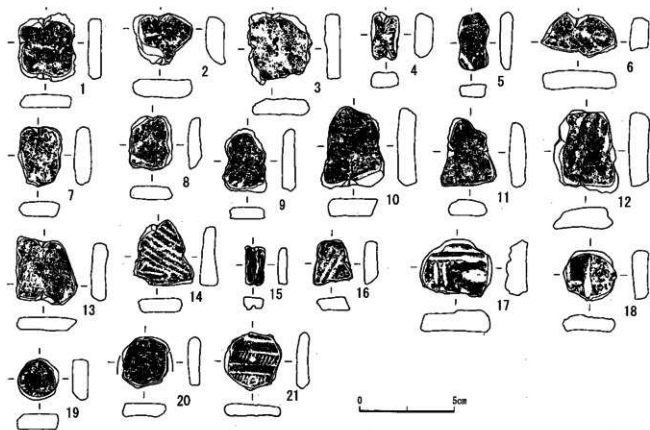
土製品は総数33点あり、内訳は土器片鍾16、土製円板5、ミニチュア土器8、土偶1、装身具2、舟形土製品1である(第23・24図)。小竪穴出土は、土器片鍾3、土製円板3、土偶1があり、小竪穴群包含層出土は、土器片鍾4、土製円板2を数え、合計13点40%を占める。

詳細については図下の観察一覧表を参照されたい。

第24図30は土偶の右腕と思われ、横に突き出した棒状で、先端に指表現はない。先の細く尖った施文具による沈線が正面上下と下面に描かれ、それに交差する沈線が引かれている。腕の付き方はほぼ水平やや下向きと思われ、形状、文様、腕の付き方などから縄文時代中期前葉または中期後葉の関東系の土偶と考えられる。

本品は46Pから出土している。ここは縄文時代中期後葉の土器片の出土が多く、そのことから中期後葉の土偶とも考えられる。

第24図33は舟形土製品とした全長約5cmの小さな品であるが、先端に三角の突起をもち、舟の船先にも似た形状を呈す。粘土塊の中央を手握ねて凹ませて作られ、文様はない。



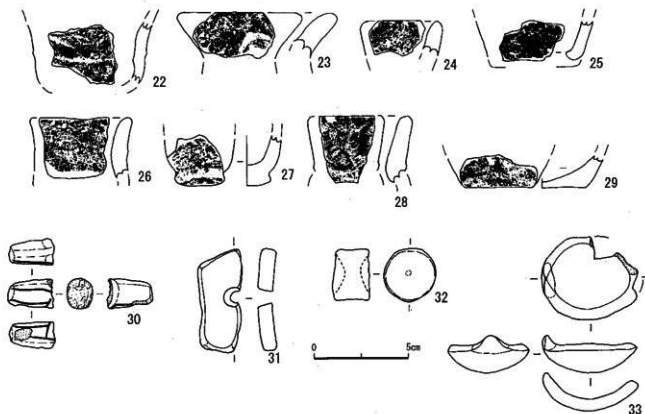
| No. | 遺物番号 | 類別 | 長(cm) | 幅(cm) | 厚(cm) | 重量(g) | 時期 | 備考(欠損、切目、形状、等) |
|-----|------------|------|-------|-------|-------|--------|------|--|
| 1 | H29.13.31P | 土器片鏝 | 3.5 | 3.0 | 0.7 | 8.6 | 縄 | 胴部、完形、無文、切目上下左右4ヵ所側縁打ち欠き形成 |
| 2 | J29.51.41P | 土器片鏝 | 2.7 | 3.1 | 1.0 | 6.9 | 縄 | 頸部、右下欠損無文、切目上下左右3ヵ所側縁磨き整形 |
| 3 | N26.62.70P | 土器片鏝 | 3.8 | 3.4 | 0.8 | 108.0 | 縄 | 胴部、下端欠損、無文、切目上左右3ヵ所上側磨き整形 |
| 4 | G24.54 | 土器片鏝 | 2.5 | 1.5 | 0.8 | 3.0 | 縄 | 胴部、完形、無文、切目上下2ヵ所左右側磨き整形 |
| 5 | G24.55 | 土器片鏝 | 3.0 | 1.6 | 0.6 | 3.5 | 縄 | 口縁部?完形、切目上下左右4ヵ所 |
| 6 | I17.90a7 | 土器片鏝 | (2.4) | 4.0 | 0.9 | (7.4) | 縄 | 胴部、下部欠損、無文、切目上1ヵ所側縁成形 |
| 7 | I27.11a7 | 土器片鏝 | 3.1 | 1.3 | 0.8 | 6.9 | 縄 | 胴部、完形、無文、切目上下左右3ヵ所、側縁粗削り |
| 8 | J23.1847 | 土器片鏝 | (2.9) | 2.2 | 0.7 | (6.1) | 縄 | 胴部、下半欠損、無文、切目上1ヵ所、側縁磨き整形 |
| 9 | J23.19147 | 土器片鏝 | 3.2 | 2.4 | 0.6 | 6.8 | 縄 | 胴部、完形、無文、切目上下左右4ヵ所、上縁左整形 |
| 10 | K24.19147 | 土器片鏝 | 4.3 | 3.3 | 0.9 | 13.6 | 縄 | 胴部、完形、下縁に横位沈線、切目上下左右4ヵ所側縁形成 |
| 11 | L25.29147 | 土器片鏝 | 3.5 | 2.9 | 0.8 | 8.3 | 縄 | 胴部、下部欠損、無文、切目上左右3ヵ所側縁粗削り |
| 12 | N24.277a7 | 土器片鏝 | 4.4 | 3.4 | 1.1 | 15.9 | 縄 | 胴部、完形、無文、切目上下左右4ヵ所全側打ち欠き形成 |
| 13 | N24.287a7 | 土器片鏝 | 3.5 | 3.2 | 0.7 | 8.9 | 縄 | 胴部、完形、無文、切目上下2ヵ所、打ち欠き成形 |
| 14 | Z42.947 | 土器片鏝 | 3.4 | 3.1 | 0.9 | 8.0 | 縄・後 | 口縁部、完形、斜め沈線、切目上左右3ヵ所 |
| 15 | Z43.47 | 土器片鏝 | 2.1 | 1.1 | 0.7 | 1.8 | 縄・後前 | 口縁部、完形、表面文線磨、切目上下2ヵ所打ち欠き形成 |
| 16 | N24.267a7 | 土器片鏝 | 2.3 | 2.1 | 0.7 | 3.2 | 縄 | 胴部、完形、斜め沈線、切目、上、左、右4ヵ所側縁打ち欠き形成 |
| 17 | I28.7.28P | 土製円板 | (3.0) | 3.8 | 1.2 | (12.9) | 縄・中後 | 胴部、完形?C字溝帯横位隆起帯、左斜沈線、歯ぎ整形 |
| 18 | J29.50.40P | 土製円板 | 2.6 | 2.8 | 0.9 | 5.8 | 縄・中後 | 胴部、左下・形欠損、隆起帯に太沈線、全周磨き整形 |
| 19 | M26.33.83P | 土製円板 | 2.1 | 2.1 | 0.8 | 4.4 | 縄 | 胴部、完形、無文、全周左整形 |
| 20 | H23.770a7 | 土製円板 | (2.7) | (2.4) | 0.7 | (4.4) | 縄 | 胴部、左右欠損、無文、上部磨き整形、下部打ち欠き |
| 21 | O23.870a7 | 土製円板 | 3.0 | 3.0 | 0.6 | 6.8 | 縄・後前 | 胴部、ほぼ実形、沈線と周を一部縄文埋める、たり整形は少ないが、打ち欠き形成している、胴部 |

第23図 土製品実測図 その1 (1:2)

岡谷市内の目切遺跡（「山の手目切・清水田遺跡」2005 岡谷市教育委員会）に舟形土製品が出土して、こちらは外面に隆線による渦文が付けられ 縄文時代中期後葉期の所産であろうと考えている。大きさ、形状は類似するが文様の有無は大きく異なる。本品の所属時期は不明である。

石製品は58P出土の黒耀石製の異形石器（写真20）と、61P出土の滑石がある。

（山田）



| No. | 遺物番号 | 種別 | 口径 | 底径 | 高 | 重量 | 時期 | 備考 |
|-----|------------|---------|----|-------|-------|---------|----|----------------------|
| 22 | E16.1694 | ミニチュア土器 | — | — | (3.1) | (7.9) | 縄 | 胴部、無文、輪痕強が明確にのこる |
| 23 | Z348 | ミニチュア土器 | — | — | (2.4) | (14.6) | 縄 | 口縁部、カギ状の太沈線 |
| 24 | G18.290474 | ミニチュア土器 | — | — | (1.8) | (4.9) | 縄 | 口縁部、無文 |
| 25 | H17.1694 | ミニチュア土器 | — | — | (2.1) | (5.5) | 縄 | 胴下半部、底部直上部、無文 |
| 26 | H21.1694 | ミニチュア土器 | — | — | (3.2) | (10.2) | 縄 | 口縁部～胴部 無文 |
| 27 | Z8 | ミニチュア土器 | — | 2.6 | (2.7) | (13.7) | 縄 | 底部～胴下半部 無文 底部の作り特徴 |
| 28 | I18.87474 | ミニチュア土器 | — | — | (3.5) | (10.0) | 縄 | 口縁部～胴部 無文 |
| 29 | T10774 | ミニチュア土器 | — | (3.6) | (1.7) | (107.0) | 縄 | 底部、上部はヘラ状施文具による沈線が刺突 |

| No. | 遺物番号 | 種別 | 長(cm) | 幅(cm) | 厚(cm) | 重量(g) | 時期 | 備考 |
|-----|-----------|--------|-------|-------|-------|--------|-----|----------------------|
| 30 | J28.2746P | 土偶 | 2.4 | 1.6 | 1.4 | (4.6) | 縄 | 土偶手（左腕） |
| 31 | H15.67474 | 垂飾 | 6.4 | 2.4 | 0.8 | 10.2 | 縄 | 完形（？）、板状で穿孔あり |
| 32 | P21.14 | 耳輪 | 2.7 | — | 1.9 | 16.1 | 縄・後 | 完形 |
| 33 | Z3994 | 舟形土製品? | 5.0 | 4.3 | 2.0 | (19.8) | 縄 | 舟形土製品か、舟先端突起させている 無文 |

第24図 土製品実測図その2（1：2）

5. 平安時代・中世の出土遺物

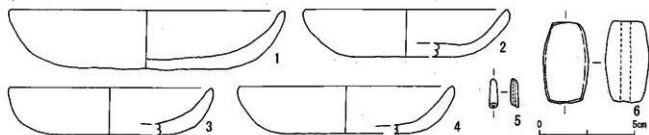
北西区の調査開始当初からカワラケ破片の出土があり、遺構の存在も期待されたが、近代の整地攪乱により確認はできなかった。

出土したカワラケのうち4点を図化した(第25図1~4)。口径11~15cm、器高2.2~3cmの手握ねによる作りである。すべて砂礫層から出土して、遺構に伴うものはない。1は内外面をごく粗くナデている。2は内面はややていねいにナデているが外面は粗い。3、4は内外面ともていねいにナデられている。口唇は全品尖り気味に作られる。所属時期は中世のどこかは不明である。

第25図5・6は管状の紡錘形の土鍾である。5は最大径0.4cmと細くて小さく、本当に土鍾だろうかといまだに疑問視している。6は逆に太くて大きく、古代の管状土鍾と様相を異にする。この2点も所属時期を特定できない。

その他、土師器、須恵器の出土があり、古代~中世の集落が付近で営まれていたであろうと思われる。

(山田)



| No. | 遺物番号 | 種別 | 口径(cm) | 底径(cm) | 高(cm) | 成形 | 調査 |
|-----|-----------|--------|--------|--------|-------|-----|--------|
| 1 | 6T3 | 中世土師器皿 | (14.4) | (8.4) | 3.1 | 手握ね | 軽いナデ |
| 2 | T6.6h | 中世土師器皿 | (11.6) | (7.0) | 2.5 | 手握ね | 回転横ナデ |
| 3 | I21.37.7c | 中世土師器皿 | (11.0) | (5.6) | 2.5 | 手握ね | 軽い回転ナデ |
| 4 | Z4 | 中世土師器皿 | (10.7) | (7.1) | 2.5 | 手握ね | 回転横ナデ |

| No. | 遺物番号 | 種別 | 長(cm) | 径(cm) | 重量(g) | 時期 | 備考 |
|-----|------------|------|-------|-------|-------|-------|--------------------------|
| 5 | I29.36.37P | 管状土鍾 | 1.5 | 0.4 | 0.2 | 平安・中世 | 細い紡錘形を呈する。直径0.1cmの孔が貫通する |
| 6 | T6.5h | 管状土鍾 | 4.2 | 2.4 | 27.8 | 平安・中世 | 紡錘形の大型品。直径0.5cmの孔が貫通する |

第25図 平安時代・中世の出土遺物実測図 (1:2)

第4章 まとめ

市内の中心市街地は古くからの居住域であり、発掘調査の機会の少ないところである。近年、海戸、岡谷丸山、横道、天王垣外、間下丸山遺跡では再開発または道路整備による調査が、また平成7～9年に間下丸山・禅海塚遺跡調査が行われ、塚間川段丘の南半部の様相が徐々に明らかになってきた。そこからは現在の丸山橋線道路が段丘の微高地のほぼ頂部にあたり、縄文時代～近世に至る集落が営まれていたことがわかってきた。もちろん近現代においても市の中心市街地として栄えている場所でもある。

今回の調査は、前回調査の西約100mの地点において行われ、すぐ西を大川が流れ、北には独立した小丘があり、中腹～裾部分では縄文時代の遺物が表面採集されている。本文中に述べたように、大半は段丘低地にあたる河川敷であり、川が運んだ砂礫が厚く堆積している。東側にローム層が堆積し、そこに住居址1棟、小竪穴54基が築かれている。そこからは微高地上の居住域と低地の小竪穴群という構造が見えてくる。ただし、その構造が環状などの定型的な形になるのかは中間地点の調査を待たなければならない。

小竪穴群内の構造を見ると、縄文時代中期後葉期と後期前葉期に二分される。第3章2で述べたように、時期による集中部分も認められず、散在している状況である。とすれば、この地点は小竪穴のための場として認められたのであって、時期を違えても同じ場所に小竪穴を設けたと考えられ、そこに社会規範が存在し利用されたと見ることが許されよう。さらにそこには「川に近いところ」という概念も加わっていたのであろうか。「川に近いところに掘られた穴」という状況から、用途・性格に迫れる可能性もあるのではないかと。

小竪穴の用途・性格の点では、「裏被せ土墳墓」である縄文時代後期の小竪穴は3基、柱の根固め石をもつ柱穴と考えられる縄文時代中期後葉の小竪穴は9基を数えるが、全体の22%に過ぎず、80%近くが用途・性格に迫れない小竪穴である。また、柱穴としたものの何のためにここに柱を建てたのか、さらに柱穴の並びに建物を想定できない状況があるなど課題も多い。また、縄文時代後期の住居址も発見されていないことから、墓域はあるが居住域がわかっていない。今後の調査に期待するところである。

調査範囲からすれば、多量の石礫の出土も特筆される。今回、紙面の都合上図示されていないが、完形品、未製品を含め300点以上が出土している。縄文時代後期の石礫の増加はすでに注意されているところであるが、未製品の多い点については、製作址を考慮する必要があるのかもしれない。

また、弥生時代の所謂庄ノ畑土器の出土も若干あり、縄文時代晩期末の土器片出土とあまって、弥生時代への移行期または開始期に迫れる可能性をもっている。

塚間川段丘上の諸遺跡は、長期にわたる複合遺跡が多く、長く居住域や墓域または経済域として使用されてきた。天竜川をさかのぼった人々の諏訪への入口の地としても重要な土地であったに違いない。将来にわたって調査が継続され、この地に居住していた人々が、遠隔地から訪れた人々と交流する姿や、牧にかかわる人々の働く姿がもし明らかになれば、さらに大きな成果となることを期してまとめとさせていただきます。

(山田)

附表 小竪穴一覽表

間下丸山遺跡

※口径・底径は長軸×短軸。()内の数値は残存値

| 小竪穴No. | 位置 | グリッド | 平面形 | 断面形 | 口径(cm) | 底形(cm) | 深さ(cm) |
|--------|-------------|------|-----------|-------|------------|-----------|--------|
| 25 | I-26・27 | | 不整形 | 皿 | 114×80 | 98×70 | 9.0 |
| 26 | I-27 | | 不整形 | 皿 | 96×74 | 72×52 | 10.0 |
| 28 | I-28 | | 不整長楕円形 | タライ | 92×82 | 58×52 | 23.0 |
| 29 | H-28 | | 長楕円形 | タライ | 70×50 | 44×28 | 26.0 |
| 30 | G-29 | | 長楕円形 | 鉢状 | 74×56 | 8×6 | 33.0 |
| 31 | G・H-29・30 | | 不整長楕円形 | タライ | 124×92 | 106×76 | 25.5 |
| 32 | G-30 | | 不整楕円形 | タライ | 78×66 | 40×36 | 20.0 |
| 37 | I-29 | | (長楕円形) | (タライ) | 112×(82) | 98×(68) | 28.0 |
| 38 | I・J-28 | | 長楕円形 | 皿 | 86×70 | 56×60 | 9.0 |
| 39 | I・J-28 | | (不整長楕円形) | (皿) | 102×(54) | 86×46 | 10.0 |
| 40 | I・J-29 | | (不整楕円形) | (タライ) | 146×122 | 116×110 | 47.5 |
| 41 | J-29 | | 円形 | 桶 | 90×86 | 60×62 | 53.4 |
| 42 | J-30 | | (楕円形) | (タライ) | 74×(32) | 62×(18) | 33.0 |
| 43 | J-30 | | (長楕円形) | (タライ) | 68×54 | 42×36 | 22.0 |
| 44 | J・K-30 | | (不整長楕円形) | (タライ) | (170)×(22) | (74)×(4) | 40.0 |
| 45 | J・K-28 | | 円形 | タライ | 60×54 | 48×44 | 26.5 |
| 46 | J-27・28 | | 円形 | 桶 | 114×110 | 98×90 | 76.5 |
| 49 | K-30 | | 円形 | 桶 | 76×68 | 58×54 | 49.0 |
| 50 | K・L-30 | | (楕円形) | (皿) | 114×(48) | 92×(40) | 9.5 |
| 51 | K・L-30 | | (不整楕円形) | (タライ) | 62×(46) | 36×38 | 11.5 |
| 57 | L-28 | | 不整ダルマ形 | 桶 | 122×88 | 104×72 | 85.5 |
| 58 | L-28 | | ダルマ形 | タライ | 124×78 | 110×64 | 57.5 |
| 59 | L-28・29 | | 不整形 | タライ | 68×(64) | 20×(30) | 20.0 |
| 60 | L・M-30 | | 不整形 | — | — | — | — |
| 61 | M-29 | | (円形) | 桶 | 82×70 | 62×66 | 67.5 |
| 62 | M・N-29 | | (長楕円形) | タライ | (60)×(64) | (48)×(62) | 16.0 |
| 63 | M-28・29 | | 不整長楕円形 | タライ | 94×62 | 58×46 | 27.0 |
| 64 | M-27・28 | | 楕円形 | 桶 | 72×62 | 62×50 | 37.0 |
| 65 | M-27 | | 不整長楕円形 | タライ | 134×118 | 112×100 | 29.0 |
| 66 | M-27 | | 不整楕円形 | 桶 | 44×34 | 36×22 | 22.7 |
| 68 | N-25 | | 楕円形 | タライ | 102×88 | 100×46 | 23.0 |
| 69 | N-26 | | (不整円形) | タライ | 82×68 | 58×46 | 18.0 |
| 70 | N-26 | | 不整形 | タライ | 122×62 | 68×56 | 22.0 |
| 71 | N-26・27 | | 不整楕円形 | タライ | 72×66 | 42×50 | 23.0 |
| 72 | N-27 | | 円形 | タライ | 84×80 | 68×68 | 41.0 |
| 73 | N-27 | | 不整円形 | タライ | 84×80 | 60×52 | 20.0 |
| 74 | N-28 | | 円形 | タライ | 66×64 | 56×56 | 15.5 |
| 75 | N-29 | | (楕円形) | 桶 | 74×(34) | 58×(26) | 51.0 |
| 77 | N・O-29 | | (長楕円形) | タライ | 96×(54) | 74×(64) | 17.0 |
| 79 | O-27 | | (長楕円形) | タライ | 120×96 | 114×82 | 14.5 |
| 80 | N・O-26 | | 長楕円形 | タライ | 92×86 | 62×52 | 18.0 |
| 81 | O-25・26 | | (不整隅丸長方形) | 皿 | 170×106 | 154×94 | 14.0 |
| 82 | O-24・25 | | 長楕円形 | タライ | 94×68 | 70×52 | 26.5 |
| 83 | M-26 | | 楕円形 | タライ | 84×70 | 72×62 | 26.5 |
| 86 | O-28・29 | | (長楕円形) | タライ | 86×60 | 48×34 | 23.0 |
| 87 | O-27 | | (楕円形) | タライ | 76×64 | 48×44 | 29.5 |
| 88 | O-28・29 | | (円形) | 皿 | 72×70 | 58×48 | 7.0 |
| 89 | K-27 | | 不整形 | 袋 | 90×84 | 50×58 | 57.0 |
| 95 | J-28 | | (長楕円形) | 皿 | (80)×(34) | (76)×(26) | 7.4 |
| 96 | M・N-29 | | (楕円形) | タライ | 92×(70) | 70×(60) | 45.5 |
| 97 | N-26 | | 不整形 | 袋 | 76×72 | 40×44 | 43.0 |
| 98 | H-25・26G-25 | | 不整長楕円形 | 鉢 | 246×194 | 6×14 | 40.8 |
| 99 | K・L-29 | | (長楕円形) | タライ | 114×(70) | 90×(46) | 36.8 |
| 100 | M・N-25・26 | | 楕円形 | タライ | 94×82 | 68×62 | 39.0 |

石器属性表

石鏡

(単位は mm, g)

| 遺物番号 | 石材 | 長さ | 幅 | 厚さ | 重さ | 色調 | 製作段階 | 備考 |
|-------------|----|--------|--------|-------|-------|--------|---------------|--------------------------------|
| 8.14H7 | ob | (23.0) | 15.0 | 3.8 | (0.9) | 青み・縞 | 完成品・欠 | |
| 8.14H7 | ob | — | — | — | (0.3) | 茶透明 | 欠 | 逆刺のみ残存 |
| 11.14H7 | ob | — | — | — | (0.1) | 透明・斑 | 欠 | 逆刺のみ残存 |
| J29.18.40P | ob | — | — | — | (0.2) | 茶透明・もや | 欠 | 逆刺のみ残存 |
| J29.41.41P | ob | — | — | — | (0.1) | 透明・もや | 完成品・欠 | |
| M29.23.46P | ob | 19.2 | 14.2 | 3.1 | 0.4 | 透明・もや | 完成品 | |
| M29.24.46P | ob | 17.5 | 14.2 | 4.1 | 0.5 | 茶透明・縞 | 完成品 | |
| M29.102.62P | ob | (9.5) | (8.2) | 2.3 | (0.1) | 茶透明 | 完成品・欠 | |
| M28.19.64P | ob | — | — | — | (0.1) | 黒透明・もや | 欠 | 逆刺のみ残存 |
| M29.21.63P | ob | 16.0 | 11.7 | 1.8 | 0.1 | 透明・縞 | 完成品 | |
| M27.13.65P | ob | 15.6 | (12.3) | 2.4 | (0.3) | 透明・縞 | 完成品・欠 | |
| N27.15.72P | ob | 13.2 | 11.1 | 2.5 | (0.3) | 透明 | 完成品・欠 | |
| O29.8.77P | ob | — | — | — | (0.3) | 茶透明 | 欠 | 一部のみ残存 |
| O29.7.77P | ob | 21.9 | 15.5 | 3.2 | (0.7) | 透明・斑 | 完成品・欠 | 側縁・細かな鋸歯状 |
| L26.33.55P | ob | (18.5) | 14.2 | (3.8) | (0.6) | 透明・もや | 欠 | 一部のみ残存 |
| I 24.3P4 | ob | (27.6) | (16.0) | 6.0 | (1.6) | 茶透明 | 完成品・欠 | 粗い作り |
| E15.1㊦㊦ | ob | 25.8 | 17.8 | 4.0 | 1.1 | 透明・縞 | 完成品 | |
| E16.7㊦㊦ | ob | (13.3) | 17.5 | 4.0 | (0.7) | 透明・もや | 完成品・欠 | |
| E18.4㊦㊦ | ob | 21.6 | (14.9) | 3.0 | (0.5) | 透明・縞 | 完成品・欠 | |
| F18.8㊦㊦㊦㊦㊦ | ob | 17.8 | (12.0) | 2.1 | (0.3) | 透明・もや | 完成品・欠 | |
| F23.2㊦㊦ | ob | (15.7) | (10.6) | 3.1 | (0.3) | 黒透明・縞 | 完成品・欠 | |
| F23.9㊦㊦ | ob | 15.5 | (11.6) | 2.7 | (0.2) | 青み・縞 | 完成品・欠 | |
| F23.19㊦㊦ | ob | — | — | — | (0.4) | 黒透明・もや | 欠 | 一部のみ残存 |
| F25.3㊦㊦㊦ | ob | 19.3 | 15.5 | 3.8 | 1.0 | 茶透明・白縞 | 完成品 | |
| F26.2茶㊦㊦ | ob | (16.9) | (11.1) | 3.1 | (0.4) | 透明 | 完成品・欠 | 片面に素材剥離面のこす |
| F27.1茶㊦㊦ | ob | 19.5 | 13.5 | 2.6 | 0.6 | 透明・縞 | 完成品 | 若干、左右非対称 |
| F27.3茶㊦㊦ | ob | (16.7) | (13.0) | 3.3 | (0.7) | 透明・縞 | 欠 | 一部のみ残存 |
| F27.8茶㊦㊦ | ob | — | — | — | (0.3) | 茶透明 | 欠 | 逆刺部のみ残存 |
| F27.9茶㊦㊦ | ob | — | — | — | (0.2) | 黒透明・もや | 欠 | 逆刺部のみ残存 |
| G18.8㊦㊦㊦㊦ | ob | (18.0) | 15.2 | 3.3 | (0.5) | 透明・もや | 完成品・欠 | |
| G23.6㊦㊦㊦ | ob | (28.5) | 14.2 | 3.5 | (1.2) | 黒透明・もや | 完成品・欠 | |
| G24.5㊦ | ob | (14.7) | (13.1) | 3.1 | (0.6) | 透明・縞 | 完成品・欠 | 有茎鏡 |
| G24.14㊦㊦㊦ | ob | (12.1) | (10.7) | 2.9 | (0.3) | 茶透明 | 完成品・欠 | 尖端から中央に向かって剥離があり、使用による欠損の可能性あり |
| G24.8㊦㊦㊦ | ob | (28.5) | (22.3) | 4.5 | (1.8) | 透明・縞 | 完成品or 整2・欠 | 整形2段階の欠損か? |
| G25.14㊦㊦ | ob | (11.5) | 8.2 | 2.5 | (0.1) | 透明・縞 | 完成品・欠 | |
| G25.15㊦㊦ | ob | (11.3) | 15.7 | (3.5) | (0.6) | 透明・縞 | 完成品・欠 | |
| G27.3茶㊦㊦ | ob | — | — | — | (0.3) | 透明・縞 | 欠 | 逆刺のみ残存 |
| H17.5㊦㊦ | ob | (16.1) | 10.6 | 2.9 | (0.4) | 青み・もや | 完成品・欠 | |
| H22.17㊦㊦ | ob | — | — | — | (0.6) | 透明・縞 | 欠 | 一部のみ残存 |
| H23.5㊦㊦㊦ | ob | 20.1 | (11.0) | 2.6 | (0.4) | 茶透明 | 完成品・欠 | |
| H23.6㊦㊦㊦ | ob | 27.2 | (11.2) | 2.5 | (0.3) | 透明・縞 | 完成品・欠 | |
| H23.11㊦㊦㊦ | ob | — | — | — | (0.2) | 透明・もや | 欠 | 逆刺のみ残存 |
| H24.5㊦㊦㊦ | ob | (18.0) | (15.6) | 3.1 | (0.5) | 黒透明・もや | 完成品・欠 | |
| H24.7㊦㊦㊦ | ob | (19.2) | 15.5 | 4.2 | (0.8) | 透明・縞 | 完成品・欠 | |
| H24.36㊦㊦㊦ | ob | — | — | — | (0.2) | 透明・もや | 欠 | 逆刺のみ残存 |
| H25.14㊦㊦㊦㊦ | ob | 16.0 | 11.6 | 2.1 | 0.3 | 透明・縞 | 完成品 | |
| H25.17㊦㊦㊦㊦ | ob | (13.2) | 19.0 | (4.9) | (0.9) | 茶透明 | 欠 | |
| H25.29茶㊦㊦ | ob | (12.7) | (16.3) | (2.4) | (0.4) | 茶透明・もや | 欠 | 基部のみ残存 |
| H25.34㊦㊦㊦㊦ | ob | 15.1 | 8.7 | 3.5 | 0.4 | 透明・縞 | 完成品 | |
| I 22.4㊦㊦ | ob | 16.1 | 11.9 | 3.5 | 0.4 | 透明・もや | 完成品 | 片逆刺 |

| 遺物番号 | 石材 | 長さ | 幅 | 厚さ | 重さ | 色調 | 製作段階 | 備考 |
|--------------|----|--------|--------|-------|-------|--------|---------|-----------------------|
| I 22.57カブ | ob | 18.1 | 12.5 | 3.5 | 0.5 | 茶透明 | 完成品 | 片側逆刺を折損後、再加工をし、片逆刺の形状 |
| I 24.57カブ | ob | (24.1) | 18.2 | 3.5 | (1.0) | 透明・縞 | 完成品 | |
| I 25.2茶カ | ob | (9.9) | (13.5) | 2.7 | (0.3) | 茶透明 | 完成品・欠 | |
| I 25.4茶カ | ob | 24.9 | (15.7) | 4.8 | (1.3) | 茶透明 | 完成品・欠 | |
| I 25.14青キヤ | ob | 20.0 | 13.5 | 3.9 | 0.7 | 透明・縞 | 完成品 | |
| I 25.23青キヤ | ob | (17.4) | 12.2 | 3.5 | 0.5 | 青み・縞 | 完成品・欠 | 有菱鏡 |
| J23.9青キヤ | ob | 26.9 | 15.7 | 4.1 | 1.2 | 茶透明 | 完成品 | 片面に素材割離面のこす |
| J23.10青キヤ | ob | 17.3 | 11.9 | 2.2 | 0.3 | 透明・縞 | 完成品 | 側縁・細かい鋸歯状 |
| J24.9青キヤ | ob | 18.6 | 12.9 | 3.8 | 0.5 | 透明・縞 | 完成品 | |
| J24.26青キヤ | ob | — | — | — | 0.1 | 茶透明 | 欠 | 一部残存のみ |
| J25.1青キヤ | ob | (21.8) | 17.0 | 3.5 | 1.4 | 青み・縞 | 完成品・欠 | 片面に自然面のこす |
| J26.7茶カ | ob | 11.6 | (9.9) | 2.2 | (0.2) | 透明・縞 | 完成品・欠 | |
| J26.4茶カ | ob | 18.9 | 9.0 | 2.6 | 0.4 | 茶透明・白縞 | 完成品 | 表面に自然面、裏面に素材割離面のこす |
| J26.10カ | ob | (17.5) | (7.0) | (3.2) | 0.3 | 茶透明・白縞 | 完成品・欠 | 挟入部中心から、尖端に向けて欠損 |
| K22.47カカ | ob | 28.0 | (17.2) | 3.2 | (0.9) | 透明・縞 | 完成品・欠 | |
| K22.37カカ | ob | 19.3 | 16.5 | 2.8 | 0.6 | 透明・縞 | 完成品 | |
| K23.7青キヤ | ob | 19.9 | 11.5 | 2.8 | (0.4) | 茶透明・縞 | 完成品・欠 | |
| K23.15カ | ob | (18.0) | (14.1) | 3.5 | (0.7) | 茶透明 | 完成品・欠 | |
| K23.16カ | ob | (14.0) | (18.2) | 3.1 | 0.3 | 茶透明 | 完成品 | |
| K24.97カカ | ob | 17.2 | 16.5 | 3.1 | 0.5 | 茶透明 | 完成品 | |
| K24.15青キヤ | ob | (20.6) | 13.2 | 3.8 | (0.7) | 透明・縞 | 完成品・欠 | 側縁細かい鋸歯状 |
| K26.4カ | ob | (12.7) | 15.2 | 4.6 | (0.7) | 茶透明・白縞 | 完成品・欠 | |
| K26.3カ | ob | (13.8) | (11.5) | 3.5 | 0.3 | 茶透明・もや | 完成品・欠 | |
| K27.3茶カ | ob | 15.3 | 13.5 | 3.1 | 0.3 | 透明 | 完成品 | 側縁鋸歯状 |
| L21.4ヤ | ob | 27.5 | 19.1 | 4.3 | 1.3 | 茶透明 | 完成品 | 左右側縁非対称 |
| L22.5青キヤ | ob | 17.2 | (16.0) | 3.0 | (0.5) | 透明・もや | 完成品・欠 | |
| L22.6青キヤ | ob | 18.2 | 12.2 | 4.7 | 0.8 | 透明・縞 | 完成品・欠 | 片面に自然面のこす |
| L23.21カ | ob | 16.1 | (14.0) | 5.1 | 0.9 | 透明・縞 | 完成品・欠 | |
| L25.5茶カ | ob | 18.2 | (15.0) | 4.0 | (0.7) | 茶透明 | 完成品・欠 | 側縁鋸歯状 |
| L25.117カカ青キヤ | ob | (17.5) | (14.2) | 5.1 | (1.1) | 茶系乳濁色 | 完成品・欠 | |
| L25.127カカ青キヤ | ob | 20.0 | 15.6 | 3.7 | 0.8 | 透明・もや | 完成品 | 周縁鋸歯状 |
| L25.157カカ青キヤ | ob | (15.1) | 15.0 | 4.1 | (0.6) | 茶透明・もや | 完成品・欠 | |
| L25.167カカ | ob | 15.5 | 10.0 | 2.0 | 0.2 | 透明・縞 | 完成品 | |
| L25.22青キヤ | ob | 19.1 | (13.2) | 3.7 | (0.7) | 透明・縞 | 完成品・欠 | |
| L25.26青キヤ | ob | (14.8) | (12.7) | 3.0 | (0.5) | 透明・もや | 完成品・欠 | |
| L26.5茶カ | ob | (15.7) | (11.8) | 3.6 | (0.5) | 透明・縞 | 完成品・欠 | |
| L26.7茶カ | ob | 13.8 | (11.5) | 3.0 | (0.3) | 透明・もや | 完成品・欠 | |
| L26.13茶カ | ob | 14.5 | 12.5 | 2.6 | 0.3 | 茶透明 | 完成品 | 片逆刺 |
| L26.14茶カ | ch | 14.0 | 12.0 | 2.5 | 0.3 | 黒系 | 完成品 | |
| L26.50茶カ | ob | — | — | — | (0.3) | 茶透明 | 完成品・欠 | |
| L26.51茶カ | ob | — | — | — | (0.2) | 黒透明・縞 | 完成品・欠 | |
| L27.52茶カ | ob | — | — | — | (0.3) | 透明・もや | 完成品・欠 | |
| M19.37カカ | ch | 33.8 | 21.0 | 5.8 | 3.2 | 灰色 | 完成品or整2 | |
| M26.18茶カ | ob | (18.9) | (12.0) | 3.0 | (0.4) | 透明・斑 | 完成品・欠 | |
| M23.10青キヤ | ob | (13.6) | (10.5) | 2.2 | (0.2) | 透明・縞 | 完成品・欠 | |
| M23.11青キヤ | ob | 20.0 | 13.9 | 2.9 | 0.6 | 透明・縞 | 完成品 | |
| M23.14青キヤ | ob | 20.0 | (11.5) | 3.3 | 0.5 | 茶透明 | 完成品・欠 | 板状原石素材 |
| M24.67カカ | ch | 15.1 | 13.4 | 3.1 | 0.5 | 緑 | 完成品 | |
| M24.13青キヤ | 頁 | 29.0 | 16.7 | 3.2 | 1.1 | | 完成品 | 側縁細かい端正な鋸歯状 |
| M24.14青キヤ | ob | 13.5 | 9.8 | 3.1 | 0.3 | 透明・もや | 完成品 | |
| M24.16青キヤ | ob | (22.2) | (12.5) | 3.2 | (0.6) | 透明 | 完成品・欠 | |
| M24.18青キヤ | ob | 12.1 | 12.0 | 2.1 | 0.2 | 透明・斑 | 完成品 | 片面に素材割離面をのこす |
| M25.67カカ | ob | 18.3 | 11.1 | 3.0 | 0.4 | 透明・もや | 完成品 | 片逆刺 |
| M25.77カカ | ob | — | — | — | 0.3 | 透明・縞 | 欠 | 一部のみ残存 |
| M25.87カカ | ob | (18.5) | (12.5) | 2.1 | 0.3 | 透明・もや | 完成品・欠 | |
| M25.127カカ | ob | 22.5 | (16.4) | 3.3 | (0.6) | 青み・縞 | 完成品・欠 | |
| M25.137カカ | ob | 22.5 | 15.9 | 3.8 | 0.8 | 透明・縞 | 完成品 | |

| 遺物番号 | 石材 | 長さ | 幅 | 厚さ | 重さ | 色調 | 製作段階 | 備考 |
|-------------|-----|--------|--------|-------|-------|--------|------------|------------------------------------|
| M25.16カキナ | ob | 16.7 | 12.3 | 3.7 | 0.5 | 透明・縞 | 完成品 | |
| M25.5茶カ | ob | 15.9 | 12.5 | 2.7 | 0.4 | 茶透明 | 完成品 | 側縁歯状、片面に素材剥離面のこす |
| M26.9茶カ | ob | (19.1) | (10.9) | 3.0 | (0.4) | 茶透明 | 完成品or整2 | 両面に素材剥離面のこす |
| M26.4茶カ | ob | (18.8) | 18.1 | 3.8 | (1.1) | 茶透明 | 完成品・欠 | |
| M27.5茶カ | ob | (12.6) | 11.0 | 2.5 | (0.2) | 茶透明・縞 | 完成品・欠 | |
| M27.1茶カ | ob | 16.1 | 11.6 | 2.2 | 0.3 | 透明・もや | 完成品 | |
| M28.4茶カ | ob | (12.1) | 10.7 | 2.0 | (0.2) | 透明・縞 | 完成品 | |
| N19.9カキ | ob | (17.9) | (12.0) | 3.2 | (0.5) | 茶透明・もや | 完成品・欠 | |
| N21.1カカカキナ | ob | 19.0 | 12.7 | 3.2 | 0.5 | 茶系乳濁色 | 完成品 | |
| N22.10カカカキナ | ob | 24.3 | 14.0 | 2.7 | 0.6 | 透明・もや | 完成品 | 両面に素材剥離面のこす、片面は縁辺のみ微調整 |
| N23.19カキナ | ob | 16.0 | 14.0 | 3.7 | 0.7 | 透明・もや | 完成品? | 片面に自然面のこす |
| N23.18カキナ | ob | 20.5 | (12.7) | 3.5 | 0.5 | 透明・縞 | 完成品・欠 | 側縁細かな鋸歯状 |
| N24.3カカ | ob | 22.3 | 16.6 | 3.1 | 0.7 | 透明・縞 | 完成品 | |
| N24.6カカ | ob | (14.5) | (8.1) | 3.2 | (0.3) | 透明 | 完成品・欠 | |
| N24.7カカ | ob | — | — | — | (0.4) | 透明・縞 | 完成品or未製品・欠 | 一部のみ残存 |
| N24.8カカ | ob | 27.4 | (11.2) | 4.1 | (0.7) | 青み・縞 | 完成品・欠 | |
| N24.9カカ | ob | 11.1 | 10.7 | 1.8 | 0.1 | 茶透明 | 完成品 | |
| N24.14カキナ | ob | 17.5 | (14.1) | 3.2 | (0.5) | 茶透明・縞 | 完成品・欠 | |
| N24.22カキナ | ob | (11.9) | (12.5) | (2.5) | (0.3) | 透明 | 完成品・欠 | |
| N25.7茶カ | ob | 13.1 | 7.3 | 2.0 | 0.1 | 茶透明 | 完成品 | |
| N26.4茶カ | ob | 15.2 | (12.0) | 2.7 | (0.4) | 透明 | 完成品・欠 | |
| N27.3茶カ | ob | 12.8 | (9.4) | 2.2 | (0.2) | 黒透明・もや | 完成品・欠 | 表面に自然剥離面、裏面に剥離面のこす |
| N28.1茶カ | ob | (14.7) | 14.6 | 4.3 | (0.9) | 透明・縞 | 完成品・欠 | |
| O19.5カ | ob | 12.0 | 12.9 | 2.8 | 0.2 | 透明 | 完成品 | |
| O22.7カカ | ob | (11.1) | (13.6) | 2.5 | (0.3) | 透明・縞 | 完成品・欠 | 片面に自然剥離面のこす |
| O22.3カカ | ob | 13.2 | 10.8 | 3.0 | 0.3 | 茶透明 | 完成品 | 表面に素材剥離面、裏面に自然剥離面のこす |
| O22.17カカ | ob | 18.3 | 15.1 | 4.4 | 0.9 | 茶透明 | 完成品? | 表面に自然面、裏面に素材剥離面のこす。平基縁あるいは、基部未製作段階 |
| O23.2カカ | ハリ安 | (17.7) | (9.0) | 3.6 | (0.5) | — | 完成品・欠 | 挟入部中心から尖端に向かって縦に欠損 |
| O23.14カカカキ | ob | 16.3 | 12.1 | 2.5 | (0.4) | 透明 | 完成品 | |
| O23.5カカ | ch | (21.1) | 20.8 | 3.0 | (1.4) | 灰色 | 完成品?・欠 | 表裏共に素材剥離面を広くのこす。周縁のみ調整 |
| O23.13カカカキ | ob | (20.4) | (13.1) | 4.1 | (0.8) | 茶透明 | 完成品・欠 | 片側の逆刺先端から他方の側縁に向かって力が加わり欠損 |
| O29.19茶カ | ob | (15.6) | 12.5 | 2.5 | (0.3) | 透明 | 完成品・欠 | |
| Q14.5カキ | ob | (14.5) | 10.0 | 3.0 | (0.4) | 黒透明・もや | 完成品?・欠 | |
| Q17.5カキ | ob | (28.0) | 15.0 | 5.2 | 1.4 | 茶透明 | 完成品・欠 | 側縁粗い鋸歯状 |
| R5.12カ | ob | (14.7) | 17.9 | 4.6 | (1.3) | 透明・縞 | 完成品・欠 | |
| R7.11カ | ob | 18.1 | 12.1 | 2.4 | 0.4 | 乳白濁色 | 完成品 | 片面に素材剥離面のこす。製作後、受熱か? |
| R7.14カ | ch | (15.8) | 16.5 | 3.7 | (0.9) | 灰色 | 完成品・欠 | |
| R7.17カ | ob | (21.4) | (15.8) | 3.5 | (0.8) | 黒透明・縞 | 完成品?・欠 | 片面に素材剥離面のこす。使用後再加工→再利用→欠 |
| R7.18カ | ob | (15.1) | (11.5) | 2.5 | (0.3) | 透明 | 完成品・欠 | |
| R8.8カ | ob | — | — | — | 0.3 | 黒透明・縞 | 欠 | 逆刺のみ残存、製作後受熱か? |
| S6.9カ | ob | — | — | — | (0.6) | 黒透明・縞 | 完成品・欠 | 逆刺のみ残存 |
| S7.12カ | ob | 21.6 | 12.5 | 3.5 | 0.8 | 黒透明・縞 | 完成品 | |
| S7.16カ | ob | — | — | — | (0.2) | 茶透明 | 欠 | 逆刺のみ残存 |
| S9.12カカ | ob | (20.0) | 13.0 | 5.0 | (0.9) | 茶透明 | 完成品・欠 | 片側縁から逆刺に向けて欠損 |
| S13.5カ | ob | 19.9 | (14.6) | 3.2 | (0.5) | 透明・もや | 完成品・欠 | |
| S13.6カ | ob | 12.6 | 10.9 | 2.0 | 0.2 | 透明・縞 | 完成品 | |
| S13.7カ | ob | (30.8) | (19.2) | 5.3 | (2.0) | 透明 | 完成品・欠 | 整作→欠損→受熱 |
| T5.3カ | ob | (17.3) | 12.7 | 3.3 | (0.7) | 茶透明 | 完成品?・欠 | |
| T5.7カ | ob | 15.1 | 14.5 | 2.1 | 0.3 | 黒透明 | 完成品 | |

| 遺物番号 | 石材 | 長さ | 幅 | 厚さ | 重さ | 色調 | 製作段階 | 備考 |
|---------|-----|--------|--------|-------|-------|--------|-------|-------------------------------------|
| T6.8ト | ch | 22.7 | 10.9 | 2.5 | 0.4 | 赤黒色 | 完成品 | |
| T6.12ト | ob | (12.1) | (12.9) | 2.8 | (0.4) | 黒透明・もや | 完成品・欠 | |
| T8.13カ | ob | (17.4) | (12.5) | (4.9) | (0.5) | 透明・縞 | 完成品・欠 | 側縁鋸歯状 |
| T9.10ト | ob | 13.3 | 9.9 | 2.1 | 0.1 | 透明・もや | 完成品 | |
| T9.6ト | ob | (14.8) | (10.6) | (4.6) | (0.4) | 透明・縞 | 完成品・欠 | |
| T9.5ト | ob | 28.8 | (20.5) | 6.0 | (2.0) | 透明・縞 | 完成品・欠 | 側縁粗い鋸歯状 |
| T9.4ト | ob | 19.4 | (13.5) | 3.7 | (0.6) | 透明・もや | 完成品・欠 | |
| T10.12ト | ob | 14.8 | 11.7 | 3.1 | 0.4 | 茶透明・縞 | 完成品 | 表面に自然割離面、裏面に素材割離面のこす 片面に自然割離面のこす |
| U5.4ト | ob | (12.1) | 13.3 | 3.1 | (0.4) | 茶透明 | 完成品・欠 | |
| U7.5ト | ob | (13.3) | 9.4 | 2.8 | (0.2) | 茶透明 | 完成品・欠 | |
| V9.2カ | ob | 18.7 | 17.0 | 4.2 | 0.7 | 透明・縞 | 完成品 | |
| 2T.1カ | ch | (15.5) | 11.5 | 3.1 | 0.4 | 緑色 | 完成品・欠 | |
| 6T.47カ | ob | (20.0) | (14.3) | 2.7 | (0.5) | 茶透明・縞 | 完成品・欠 | |
| 6T.97カ | ob | 15.2 | 12.7 | 3.6 | 0.4 | 黒・茶縞 | 完成品 | |
| 6T.25ト | ob | (7.5) | 14.2 | 3.5 | (0.4) | 黒透明・もや | 完成品・欠 | |
| Z4 | ob | 26.7 | (12.0) | 3.9 | (0.7) | 青み・縞 | 完成品・欠 | |
| Z11 | ob | 24.3 | (14.5) | 5.5 | (1.3) | 黒透明・縞 | 完成品・欠 | |
| Z12 | ob | (21.5) | (15.5) | 2.7 | (0.6) | 黒透明・縞 | 完成品・欠 | |
| Z16 | ob | (19.5) | (10.7) | 2.6 | (0.5) | 黒透明・もや | 完成品・欠 | |
| Z34 | ハリ安 | (23.5) | (16.1) | 4.1 | (0.9) | — | 完成品・欠 | |
| Z247 | ob | (20.3) | (14.0) | 2.5 | (0.6) | 透明・縞 | 完成品・欠 | |
| K21.43 | ob | 20.8 | 16.0 | 4.5 | 0.9 | 茶透明・もや | 完成品? | 石鏝or石匙 |

石鏝未製品

(単位はmm, g)

| 遺物番号 | 石材 | 長さ | 幅 | 厚さ | 重さ | 色調 | 製作段階 | 備考 |
|------------|----|--------|--------|-------|-------|--------|------|-----------------------|
| L27.45.53P | ob | 37.7 | 27.2 | 15.2 | 14.1 | 茶透明・縞 | ブランク | |
| M27.14.66P | ob | 25.5 | 17.7 | 8.2 | 3.4 | 茶透明・斑 | 成形 | 片面に自然面のこす |
| F22.107カ | ob | 42.8 | 33.6 | 15.2 | 14.9 | 黒透明・縞 | ブランク | 両面に自然面のこす |
| G15.79カ | ob | 33.0 | 22.3 | 10.2 | 8.0 | 青み | ブランク | 側面に自然面のこす |
| G16.8カ | ob | 31.0 | 27.2 | 11.1 | 10.3 | 茶透明 | ブランク | 片面に自然面のこす |
| G16.9カ | ob | 23.1 | 17.4 | 5.5 | 2.0 | 茶透明・縞 | 成形 | 片面に自然面のこす割片素材 |
| G23.197カ | ob | 32.2 | 26.2 | 18.3 | 7.5 | 茶透明 | ブランク | 板状原石素材 |
| G24.17カ | ob | 29.0 | 20.7 | 7.2 | 3.4 | 青み・縞 | 成形 | 縦長の石片③を割片素材とする |
| G25.23カ | ob | 30.9 | 24.2 | 8.3 | 5.0 | 茶透明・縞 | ブランク | |
| H16.12カ | ob | 28.0 | 19.2 | 5.6 | 2.5 | 黒透明・縞 | 成形 | 表面に自然面、裏面に素材割離面のこす |
| H24.67カ | ob | 20.5 | 13.8 | 3.5 | 0.7 | 黒透明・もや | 成形 | 石片⑤を割片素材とする |
| H24.307カ | ob | 30.6 | 20.7 | 8.0 | 4.4 | 透明・縞 | 成形 | 片面に自然面のこす |
| H25.367カ | ob | 29.9 | 20.1 | 8.5 | 3.5 | 透明・斑 | 成形 | 石片①を割片素材とする。調整後受熱 |
| H26.10茶カ | ob | 30.9 | 26.7 | 11.4 | 8.9 | 茶透明・もや | ブランク | わずかに自然面のこす |
| I 16.47カ | ob | (23.7) | 23.1 | 6.6 | (3.8) | 黒透明・もや | 青み・欠 | 片面に自然面のこす |
| I 22.167カ | ob | (16.5) | 19.6 | 3.2 | (0.8) | 透明・縞 | 成形・欠 | |
| I 25.24茶カ | ob | (25.9) | (20.6) | 7.8 | (3.3) | 茶透明・縞 | 成形・欠 | |
| J21.37カ | ob | (19.3) | 18.5 | 7.9 | (2.7) | 茶透明 | 成形 | 側面に自然面のこす |
| J24.247カ | ob | (17.5) | 17.1 | 4.0 | (1.3) | 黒透明・もや | 成形・欠 | 石片③を割片素材とする |
| J26.8カ | ob | (16.0) | 20.9 | 4.5 | (1.5) | 茶透明 | 成形・欠 | 裏面基部に打痕をのこす割片素材、調整後受熱 |
| J26.9カ | ob | 19.5 | 15.3 | 3.3 | 1.0 | 黒透明・もや | 成形 | 石片①を割片素材とする |
| K20.107カ | ob | 23.0 | 14.3 | 5.2 | 1.9 | 透明・縞 | 成形 | 側面に自然面をのこす割片素材 |
| K22.79カ | ob | 30.3 | 24.5 | 7.8 | 4.4 | 茶透明・縞 | 成形 | 割片素材 |
| L24.207カ | ob | (15.5) | 20.8 | 6.3 | (1.7) | 黒透明・縞 | 成形・欠 | 両面素材 |
| L25.379カ | ob | (11.5) | 20.1 | (4.4) | (1.0) | 茶透明・縞 | 成形・欠 | |
| L25.1137カ | ob | 35.0 | 27.0 | 14.5 | 10.3 | 黒茶 | ブランク | 側面にわずかに自然面のこす |
| L26.48茶カ | ob | 35.1 | 24.5 | 13.8 | 9.0 | 茶透明 | ブランク | 原石素材 |
| L26.52茶カ | ob | 24.5 | 16.5 | 5.1 | 1.7 | 茶透明 | 成形 | 割片素材 |
| L26.71茶カ | ob | 20.5 | 21.5 | 5.8 | 2.0 | 黒透明・縞 | 成形 | 石片④を割片素材とする |
| L27.66茶カ | ob | 30.9 | 21.2 | 5.5 | 2.9 | 茶透明・縞 | 成形 | 石片①を割片素材とする |

| 遺物番号 | 石材 | 長さ | 幅 | 厚さ | 重さ | 色調 | 製作段階 | 備考 |
|-------------|----|--------|--------|-------|-------|--------|--------|-----------------------------------|
| K26.73㌘ | ob | 27.5 | 18.1 | 6.8 | 2.8 | 透明・もや | 成形・欠 | 剥片素材 |
| M16.6㌘+2 | ob | 27.1 | 24.5 | 7.7 | 5.5 | 黒 | 成形 | 板状原石素材 |
| M21.14㌘+㌘ | ob | 21.0 | 19.1 | 6.2 | 2.4 | 茶透明 | 成形 | 両極素材 |
| M22.34㌘+㌘ | ob | 18.3 | 17.2 | 6.1 | 2.0 | 黒透明・縞 | 成形 | 両極素材 |
| M22.14㌘+㌘ | ob | 30.6 | 20.1 | 5.1 | 2.1 | 茶透明 | 成形・欠 | |
| M22.40㌘+㌘ | ob | 22.2 | 18.1 | 7.8 | 2.4 | 黒 | ブランク・欠 | |
| M24.21㌘㌘㌘+㌘ | ob | 28.8 | 23.0 | 7.5 | 3.2 | 茶透明・縞 | 成形・欠 | |
| M25.55茶㌘ | ob | 21.0 | 20.0 | 5.3 | 2.0 | 透明・縞 | 成形 | 石片㊸を剥片素材とする |
| M25.62㌘㌘ | ob | 35.8 | 30.9 | 13.5 | 13.4 | 茶透明と黒 | ブランク | 板状原石素材 |
| M26.74茶㌘ | ob | (17.8) | (18.1) | 4.8 | 1.6 | 黒透明・縞 | 成形・欠 | |
| M26.61茶㌘ | ob | 14.7 | 22.0 | 5.1 | 2.9 | 茶透明・もや | 成形 | 両極素材(上下・左右方向の打撃面あり)、片面に自然面のこす |
| M28.49茶㌘ | ob | (13.8) | 17.2 | 3.5 | (0.9) | 茶透明 | 成形・欠 | 薄い板状原石素材 |
| M28.48茶㌘ | ob | 21.0 | 18.5 | 6.5 | 1.7 | 黒透明・もや | 成形 | 片面に自然面をのこす剥片素材 |
| M29.56㌘ | ob | 22.2 | 22.8 | 6.3 | 2.7 | 黒・茶縞 | 成形 | 片面に自然剥離面のこす |
| N20.4㌘+㌘ | ob | 31.3 | 19.0 | 7.6 | 4.5 | 茶透明 | 成形 | 石片㊸を剥片素材とする |
| N21.4㌘+㌘ | ob | (17.6) | (15.5) | 5.5 | (1.6) | 茶透明・もや | 成形・欠 | |
| O21.28㌘ | ob | 20.9 | 18.4 | 4.5 | 1.8 | 茶透明・もや | 成形 | 片面に自然面のこす |
| O27.24茶㌘ | ob | 16.5 | 15.8 | 4.1 | 0.8 | 茶透明 | 成形 | 側面に自然面をのこす剥片素材 |
| P18.6㌘ | ob | 30.0 | 22.0 | 12.0 | 5.3 | 黒透明・もや | 成形 | 片面に自然面のこす |
| R6.8㌘ | ob | 16.7 | 14.1 | 3.6 | 0.7 | 茶透明 | 成形 | |
| R13.9㌘ | ob | (14.7) | (21.6) | 4.6 | 1.5 | 茶透明・縞 | 成形・欠 | |
| S7.15㌘ | ob | 18.7 | 15.1 | 2.8 | 0.6 | 茶透明・もや | 成形・欠? | 扁平な剥片素材、一側縁は折断か破損 |
| S8.9㌘ | ob | 36.1 | 29.6 | 9.2 | 9.0 | 茶透明・縞 | ブランク | |
| S9.16㌘ | ob | 23.9 | 18.5 | 4.8 | 1.8 | 青み・縞 | 成形 | 片面に自然面をわずかにのこす剥片素材 |
| T9.22㌘ | ob | 27.3 | 19.5 | 7.8 | 3.0 | 透明・縞 | 成形 | 石片㊸を剥片素材とする |
| T10.4㌘ | ob | 24.5 | 17.1 | 6.9 | 1.8 | 茶透明・もや | 成形 | 石片㊸を剥片素材とする |
| T10.15㌘ | ob | 15.0 | 14.1 | 7.0 | 1.2 | 透明・斑 | 成形 | 両極素材 |
| U7.10㌘ | ob | 27.1 | 23.5 | 5.8 | 3.2 | 茶透明 | 成形 | 横長の石片㊸を剥片素材とする |
| U10.12㌘ | ob | 19.0 | 16.6 | 3.5 | 1.0 | 茶透明・縞 | 成形 | 片面に素材剥離面をのこし、他面に基部から側面に向けて剥離が及び破損 |
| U10.14㌘ | ob | 22.0 | 20.1 | 5.2 | 2.2 | 茶透明・斑 | 成形 | 石片㊸を剥片素材とする |
| 2T.13 | ob | 14.0 | 13.5 | 9.6 | 1.5 | 茶透明 | 成形 | 両極素材 |
| 7T.17㌘ | ob | 23.2 | 16.5 | 7.1 | 2.3 | 茶透明・縞 | 成形 | 石片㊸を剥片素材とする |
| 8T.9㌘㌘ | ob | 21.1 | 19.0 | 6.5 | 2.1 | 茶透明 | 成形 | 片面に自然面をのこす |
| 6T.18灰 | ob | 40.2 | 28.5 | 7.6 | 6.3 | 黒透明・縞 | 成形 | 石片㊸を剥片素材とする |
| Z7 | ob | 24.0 | 20.5 | 6.1 | 2.9 | 黒透明・もや | 成形 | 素材に打面と打磨痕をのこす |
| Z10 | ob | 22.3 | (20.0) | 4.8 | (1.9) | 透明・縞 | 成形・欠 | |
| Z18 | ob | 31.9 | 24.9 | 7.8 | 5.9 | 茶透明・もや | ブランク | 側面に自然面をのこす。レキ状剥片素材 |
| Z19 | ob | 27.7 | 27.3 | 10.9 | 6.8 | 黒 | 成形 | |
| Z177 | ob | 18.8 | 13.6 | 3.5 | 0.7 | 透明・縞 | 成形 | 石片㊸を剥片素材とする |
| Z246 | ob | 21.2 | 11.0 | 3.8 | 0.7 | 茶透明・斑 | 成形 | 石片㊸を剥片素材とする |
| Z262 | ob | 23.9 | (23.7) | 7.3 | 3.1 | 透明・縞 | 成形 | |
| Z293 | ob | 27.7 | 20.9 | 9.0 | (5.2) | 黒透明・縞 | ブランク | 片面に自然面をのこす |
| I 29.34.37P | ob | 24.5 | 12.5 | 4.6 | 1.1 | 透明・縞 | 整1 | 横長剥片素材、素材の打面のこす |
| J29.19.40P | ob | 21.5 | (9.0) | (5.5) | (0.8) | 透明・斑 | 整1・欠 | 製作中央端から基部に向けての力で欠損 |
| D14.2㌘+2 | ob | 24.9 | 19.1 | 4.2 | (1.6) | 黒? | 整1・欠 | 基部の磨理面での破損 |
| E18.3㌘㌘㌘+㌘ | ob | 20.9 | 17.0 | 13.6 | 1.0 | 茶透明・もや | 整1 | |
| F23.34㌘㌘㌘ | ob | (20.0) | 15.5 | 3.6 | (1.0) | 茶透明・白縞 | 整1・欠 | 石片㊸を剥片素材に、押圧剥離を加える |
| F26.3茶㌘ | ob | 11.4 | 12.0 | 3.8 | 0.6 | 茶透明・縞 | 整1 | 横長の石片㊸を剥片素材に、押圧剥離を加える |
| G17.3㌘㌘㌘+㌘ | ob | (35.1) | (19.2) | 16.5 | (3.5) | 茶透明・縞 | 整1・欠 | |
| G20.10㌘+㌘ | ob | 17.9 | (12.5) | 4.5 | (0.7) | 茶透明 | 整1・欠 | 片面に自然面のこす |
| G24.25㌘㌘㌘ | ob | (18.5) | 20.1 | 4.3 | (1.6) | 茶透明・縞 | 整1・欠 | |
| G25.29㌘+㌘ | ob | (21.7) | (17.7) | 3.2 | (1.0) | 透明・縞 | 整1・欠 | 石片㊸を剥片素材 |

| 遺物番号 | 石材 | 長さ | 幅 | 厚さ | 重さ | 色調 | 製作段階 | 備考 |
|------------|----|--------|--------|-------|-------|--------|-------|--------------------------------|
| G25.30片ナサ | ob | — | — | — | (0.4) | 茶透明 | 整1?~欠 | 逆刺のみ残存、素材剥離面のこす |
| G28.1茶カ | ob | — | — | — | (0.8) | 茶透明・縞 | 整1?~欠 | |
| H16.11片ナ | ob | 25.5 | 14.5 | 8.7 | 1.8 | 黒・縞 | 整1 | 欠損後再加工 |
| I 25.1茶カ | ob | (21.7) | (17.8) | 7.2 | (2.7) | 茶透明 | 整1~欠 | 基部から先端に向けての剥離で力が及び先端破損 |
| I 25.9茶カ | ob | (20.0) | 18.5 | 3.5 | 0.9 | 透明・もや | 整1~欠 | |
| J24.10片ナサ | ob | (16.7) | 16.5 | 4.1 | (1.0) | 黒透明 | 整1~欠 | |
| L25.8茶カ | ob | 27.2 | 22.5 | 7.5 | 3.1 | 透明・もや | 整1 | |
| L26.12茶カ | ob | 24.0 | 14.0 | 6.3 | 1.7 | 茶透明・もや | 整1 | 幅に対して減厚が不可能となり製作放棄か? |
| L27.60茶カ | ob | 19.2 | 11.0 | 3.3 | 0.6 | 透明・縞 | 整1 | 石片①を剥片素材とする |
| M22.13片ナ | ob | 26.5 | 20.9 | 5.2 | 2.5 | 茶透明 | 整1 | 側面から対する基部に向けて剥離が及び基部破損、受熱 |
| N24.4?カ | ob | 15.6 | 14.4 | 2.9 | (0.5) | 茶透明 | 整1~欠 | |
| N25.4茶カ | ob | 17.0 | 14.3 | 5.5 | 0.9 | 茶透明 | 整1 | 横長の石片③を剥片素材とする |
| N25.8茶カ | ob | (14.0) | (10.0) | 2.6 | (0.3) | 茶透明 | 整1~欠 | |
| M26.49茶カ | ob | (11.1) | 14.8 | 3.4 | (0.6) | 黒透明・縞 | 整1~欠 | |
| M29.65茶カ | ob | 17.6 | 11.1 | 3.0 | 0.5 | 透明・縞 | 整1 | 自然面をのこす剥片素材、破損後も調整を行う |
| M29.67茶カ | ob | 17.1 | 14.0 | 4.4 | 0.8 | 茶透明 | 整1 | わずかに自然面のこす剥片素材 |
| N14.3?ナ | ob | 27.5 | 18.2 | 4.2 | 1.8 | 黒透明・もや | 整1~欠 | 側縁から対する基部に向けて剥離が及び破損 |
| N24.15片ナサ | ob | 21.6 | 18.3 | 5.5 | 1.9 | 透明・縞 | 整1 | 板状原石素材、周縁鋸歯状 |
| N24.20片ナサ | ob | (22.0) | 20.6 | 6.1 | (2.7) | 茶透明・もや | 整1~欠 | |
| N24.2茶カ | ob | 15.5 | 10.5 | 4.0 | 0.6 | 茶透明 | 整1 | |
| O23.1?カ | ob | 22.7 | 18.5 | 6.0 | 1.9 | 茶透明 | 整1 | 周縁鋸歯状、側面調整ミスの為形状を損ねる |
| O26.42茶カ | ob | (21.5) | 17.5 | 5.6 | (1.8) | 黒透明・縞 | 整1~欠 | |
| P19.14?ナ | ob | 20.1 | (16.6) | 5.6 | (1.8) | 黒透明・もや | 整1~欠 | |
| S8.5?カ | ob | 27.0 | (14.1) | 3.5 | (1.2) | 黒透明・縞 | 整1~欠 | 石片②を剥片素材とする |
| T7.7?ナ | ob | 22.1 | 18.0 | 5.6 | 2.2 | 透明・もや | 整1 | |
| U10.11?カ | ob | (20.6) | 20.0 | 5.7 | (2.2) | 透明・縞 | 整1~欠 | |
| 6T.57?カ | ob | 20.1 | 14.6 | 3.8 | 0.9 | 透明・縞 | 整1 | 欠損後、再調整 |
| 6T.227?カ | ob | (14.1) | 17.5 | 5.0 | (1.0) | 茶透明 | 整1~欠 | 欠損後、受熱 |
| Z3 | ob | 26.7 | (21.5) | 3.3 | (1.7) | 透明・縞 | 整1~欠 | 片面に自然面をのこし、他面に横長の素材剥離面をのこす |
| Z9 | ob | 24.5 | 23.0 | 4.2 | 2.1 | 透明・縞 | 整1 | |
| Z279 | ob | (19.2) | (17.3) | 4.0 | (1.1) | 透明・縞 | 整1~欠 | |
| Z294 | ob | 24.3 | 22.0 | 6.9 | 2.6 | 黒透明・もや | 整1~欠 | |
| Z310 | ob | (15.0) | (14.5) | 4.0 | (0.7) | 茶透明・もや | 整1~欠 | |
| Z141?7 | ob | 23.6 | (16.5) | 3.5 | (1.0) | 青み・縞 | 整2~欠 | 片面に素材剥離面のこす |
| I29.6.37P | ob | 26.5 | (16.9) | 2.9 | (1.0) | 透明・もや | 整2~欠 | 逆刺部左右とも欠損後、一逆刺のみ再調整 |
| J30.4P1 | ob | (18.0) | 15.7 | 3.7 | 0.9 | 黒透明・もや | 整2~欠 | |
| F19.4?カ?ナ | ob | 19.4 | 16.7 | 2.9 | 0.6 | 透明・縞 | 整2 | 先端が「ちょこん」と突出 |
| H16.18片ナ | ob | (15.5) | (13.0) | 3.0 | (0.5) | 透明・縞 | 整2~欠 | |
| H24.19片ナサ | ob | (15.8) | (13.5) | 4.1 | (0.7) | 黒透明・もや | 整2~欠 | |
| H24.10?カ?ナ | ob | (14.2) | (10.6) | 3.1 | (0.3) | 茶透明 | 整2~欠 | |
| H28.1茶カ | ob | (10.1) | (12.1) | 3.0 | (0.3) | 茶透明 | 整2~欠 | |
| I 17.1?カ?ナ | ob | (18.7) | (17.2) | 5.6 | (1.3) | 黒茶 | 整2~欠 | |
| I 23.3?カ | ob | (18.5) | (11.1) | 4.0 | (0.7) | 黒透明・縞 | 整2~欠 | 挿入部中心から先端に向かっての剥離が及び先端破損、側面鋸歯状 |
| I 27.1茶カ | ob | (16.8) | (16.6) | (8.1) | (0.4) | 透明・もや | 整2~欠 | 片面に自然面のこす |
| J25.4?ナ | ob | 19.2 | 16.5 | 2.7 | (0.8) | 透明・縞 | 整2~欠 | 基部中央から側面に向かっての剥離調整が及び側面が破損 |
| K26.7茶カ | ob | 30.5 | 15.6 | 4.6 | 2.0 | 青み・縞 | 整2 | |
| L24.7?ナ | ob | (15.5) | (14.1) | 3.6 | (0.7) | 透明・縞 | 整2~欠 | 逆刺部から先端に向かって破損 |
| L25.13?カ?ナ | ob | 32.0 | 18.3 | 7.5 | 3.1 | 青み・縞 | 整2 | |
| L27.6茶カ | ob | 29.5 | 19.0 | 5.2 | 1.7 | 透明・縞 | 整2 | 片面に素材剥離面のこす |
| L27.11茶カ | ob | 17.8 | 15.5 | 4.5 | 0.7 | 茶透明・もや | 整2 | 片面に素材剥離面をのこし、調整はなし |

| 遺物番号 | 石材 | 長さ | 幅 | 厚さ | 重さ | 色調 | 製作段階 | 備考 |
|----------|----|--------|--------|-------|-------|--------|------|------------------------------|
| L27.53茶カ | ob | (25.6) | 15.9 | 6.5 | (2.1) | 黒透明・もや | 整2・欠 | |
| M22.37ウカ | ob | 23.5 | (12.3) | 4.1 | (0.8) | 茶透明 | 整2・欠 | |
| M25.11ウカ | ob | (28.0) | (18.6) | 3.6 | (1.2) | 黒透明・もや | 整2・欠 | 側面から対する逆刺に向けて剥離及び逆刺破損 |
| M25.86ウカ | ob | (12.5) | 12.5 | 2.8 | (0.5) | 透明・縞 | 整2・欠 | |
| M26.59茶カ | ob | (16.3) | (9.1) | 3.3 | (0.3) | 茶透明 | 整2・欠 | 尖端から逆刺に向けて剥離及び逆刺破損 |
| M27.4茶カ | ob | 30.0 | 22.6 | 7.9 | 4.0 | 透明・縞 | 整2 | |
| N22.37ウカ | ob | (14.2) | 14.5 | 3.8 | (0.7) | 黒透明・もや | 整2・欠 | 尖端欠損後再調整の可能性あり |
| N25.3茶カ | ob | (14.9) | 10.5 | (3.2) | (0.3) | 茶透明 | 整2・欠 | |
| N29.3ウカ | ob | 21.0 | 20.0 | 5.5 | (1.8) | 黒透明・縞 | 整2 | |
| O27.23茶カ | ob | 22.5 | 13.5 | 3.7 | (0.8) | 透明・もや | 整2・欠 | 表裏に素材剥離面のこす |
| F23.28ウカ | ob | 25.1 | 21.1 | 3.5 | 1.6 | 黒透明・もや | 素材 片 | 表面に自然剥離面、裏面に素材剥離面をのこす(石片④)素材 |
| F24.5ウカ | ob | 16.3 | 14.5 | 6.6 | 1.1 | 黒透明 | 素材 片 | 両極素材 |
| F25.10ウカ | ob | 24.8 | 19.8 | 8.8 | 3.9 | 茶透明・縞 | 素材 片 | ブランク |
| H17.10ウカ | ob | 21.5 | 20.2 | 6.0 | 2.6 | 黒 | 素材 片 | 石片①を剥片素材とする |
| I21.17ウカ | ob | 30.1 | 25.5 | 10.2 | 7.0 | 青み | 素材 片 | 打痕をのこす剥片を素材とし、側面に自然面のこす |
| I27.27茶カ | ob | 24.7 | 22.0 | 6.5 | 2.8 | 茶透明 | 素材 片 | 原石素材 |
| L25.3茶カ | ob | 15.6 | 12.7 | 3.2 | 0.5 | 茶透明 | 素材 片 | 両極素材 |
| L27.6茶カ | ob | 39.1 | 28.1 | 10.6 | 9.1 | 青み・縞 | 素材 片 | 原石の二辺を折断して三角形の素材を作る |
| M17.7ウカ | ob | 26.5 | 17.6 | 5.6 | 2.4 | 茶透明 | 素材 片 | 石片②を剥片素材とする |
| M21.20ウカ | ob | 15.5 | 11.0 | 4.9 | 0.6 | 茶透明・もや | 素材 片 | 横長の石片⑤を剥片素材とする |
| V11.6ウカ | ob | (25.5) | 16.5 | 9.5 | (3.4) | 透明・縞 | 素材 片 | 両極素材、片面に自然面のこす |

尖頭器

(単位はmm, g)

| 遺物番号 | 石材 | 長さ | 幅 | 厚さ | 重さ | 色調 | 製作段階 | 備考 |
|----------|----|------|------|------|-------|------|-------|----------------|
| N24.57ウカ | 安 | 54.4 | 25.5 | 14.2 | 21.6 | — | 成形 | 側面、基部下面に自然面のこす |
| O27.1茶カ | ob | 25.5 | 16.2 | 3.6 | (1.3) | 青み・縞 | 整形1・欠 | 裏面に素材剥離面のこす |

石鏝

(単位はmm, g)

| 遺物番号 | 石材 | 長さ | 幅 | 厚さ | 重さ | 色調 | 備考 |
|------------|----|--------|-------|-------|-------|--------|----------------------------------|
| K26.42.48P | ob | 28.2 | 20.0 | 10.3 | 3.3 | 透明・縞 | 自然面をのこすレキ状剥片素材 |
| F19.7ウカ | ob | 24.1 | 5.7 | 4.0 | 0.5 | 透明・縞 | 棒状 |
| G23.13ウカ | ob | 24.5 | 9.8 | 9.3 | 1.7 | 茶透明 | 棒状 |
| G26.1茶カ | ob | 27.5 | 16.8 | 9.2 | 2.7 | 茶透明・縞 | 片面に自然面をのこす剥片素材、尖端に磨耗痕あり |
| H16.17ウカ | ob | 39.2 | 14.6 | 7.5 | 3.5 | 黒透明・もや | 片面に自然面をのこすタテ長の剥片素材 |
| H16.21ウカ | ob | (28.0) | 19.1 | 9.2 | (3.0) | 黒透明・縞 | 両面に自然面をのこすレキ状剥片素材 |
| H23.14ウカ | ob | 23.7 | 12.7 | 6.5 | 1.7 | 黒茶 | 石片③を剥片素材とする |
| H25.8茶カ | ob | (18.9) | 7.2 | 4.7 | (0.5) | 茶透明 | 棒状 |
| H25.15ウカ | ob | 43.0 | 15.8 | 6.8 | 2.8 | 黒 | 基部のある棒状、片面の一部に自然面をのこす剥片素材 |
| H26.9茶カ | ob | 14.8 | 10.0 | 5.0 | 0.5 | 透明・斑 | 片面に自然剥離面をのこす剥片素材 |
| K24.34ウカ | ob | 24.6 | 0.9 | 4.5 | 0.8 | 透明・縞 | 石片②を剥片素材とする |
| K26.52ウカ | ob | 19.8 | 8.5 | 5.5 | 0.8 | 茶透明・もや | 棒状・片面にわずかに自然面をのこし、他面に素材剥離面をのこす |
| K26.68茶カ | ob | 19.0 | 7.6 | 3.8 | 0.6 | 透明・縞 | 石片③を剥片素材とする |
| L25.91ウカ | ob | 27.8 | 12.7 | 7.5 | 2.1 | 茶透明・もや | 石片②をタテ長剥片素材とする |
| L26.9茶カ | ob | 30.8 | 13.8 | 7.6 | 2.0 | 透明・縞 | 基部のある棒状 |
| L27.61茶カ | ob | (28.8) | 7.5 | 6.7 | (1.1) | 茶透明・縞 | 自然剥離面を一部にのこすタテ長の剥片素材 |
| M23.15ウカ | ob | (31.6) | 12.1 | 7.7 | 2.7 | 茶透明 | タテ長の石片④を剥片素材とし素材の尖端を利用している。磨耗痕あり |
| M28.52茶カ | ob | 25.0 | 17.2 | 8.0 | 2.6 | 茶透明 | ヨコ長の石片⑤を剥片素材とする。石鏝未製品の可能性あり |
| N22.19ウカ | ob | (12.5) | (8.2) | (3.2) | (0.3) | 透明・縞 | 自然面をのこす剥片素材 |
| N25.22茶カ | ob | 28.0 | 15.5 | 12.5 | 2.6 | 透明・縞 | 石鏝の可能性あり |

| 遺物番号 | 石材 | 長さ | 幅 | 厚さ | 重さ | 色調 | 備考 |
|-----------|----|--------|------|------|-------|--------|------------------------------------|
| N24.61カカカ | ob | 16.6 | 7.4 | 4.1 | 0.5 | 茶透明・もや | |
| N25.35茶カ | ob | 35.1 | 10.7 | 9.7 | 2.8 | 茶透明・縞 | ヨコ長の石片②を剥片素材とする |
| O23.97カカ | ob | 33.2 | 13.0 | 4.6 | 1.8 | 灰色 | 片面に素材剥離面のこす |
| Q18.37カ | ob | (27.2) | 16.6 | 9.0 | (3.6) | 青み・縞 | 片面にわずかに自然面のこす |
| S7.3カ | ob | 21.6 | 19.8 | 5.9 | 1.6 | 茶透明・もや | ヨコ長の石片③を剥片素材とする |
| S7.8コ | ob | 52.0 | 25.6 | 12.0 | 5.4 | 透明・もや | 基部と尖端部が明確に分けられた作りで、基部は両面に自然面をのこす優品 |
| S14.3カ | ob | 39.6 | 11.7 | 4.5 | 1.6 | 茶透明 | 棒状 |
| T6.13コ | ob | 17.2 | 7.9 | 5.9 | 0.7 | 茶透明・縞 | |
| T7.13カ | ob | 30.7 | 17.8 | 8.0 | 2.4 | 茶透明・縞 | 自然面の打面をのこすヨコ長の石片③を剥片素材とする |
| U7.7カ | ob | 25.7 | 18.5 | 6.1 | 1.8 | 透明・斑 | ヨコ長の石片③を剥片素材とする |
| 2T.8一 | ob | 31.5 | 27.2 | 12.0 | 4.3 | 透明・縞 | 石片④を剥片素材とする |
| 6T.26コ | ob | 26.3 | 13.4 | 5.9 | 1.6 | 透明・もや | タテ長の石片③を剥片素材とする |
| 8T.6外 | ob | (18.5) | 17.7 | 5.7 | (1.1) | 白濁色 | 石片⑤を剥片素材とする |
| 8T.7外 | ob | 30.0 | 17.1 | 8.3 | 2.7 | 透明・縞 | 石片④を剥片素材とする |
| Z86 | ob | 27.2 | 8.1 | 6.0 | 1.0 | 透明・縞 | 表裏面に自然面をのこす剥片素材 |
| Z248 | ob | 26.5 | 11.0 | 4.1 | 0.8 | 透明・縞 | 石片①を剥片素材とする |
| Z295 | ob | 35.1 | 17.5 | 5.6 | 2.6 | 黒透明・縞 | タテ長の石片②を剥片素材とする |

石匙

(単位はmm, g)

| 遺物番号 | 石材 | 長さ | 幅 | 厚さ | 重さ | 色調 | 備考 |
|-------------|----|------|------|-----|------|-----|------------|
| I 29.15.37P | ch | 35.8 | 20.5 | 7.3 | 4.0 | 緑灰色 | 刃部調整なく未製品か |
| G24.28外カ | ch | 34.1 | 32.5 | 9.1 | 8.0 | 灰色 | 未製品 |
| H14.1カ | ob | 35.8 | 41.0 | 9.2 | 9.3 | 茶透明 | |
| H17.6外カ | ch | 35.5 | 33.2 | 9.7 | 10.4 | 緑灰色 | |
| M25.21外カ | 頁 | 20.2 | 37.0 | 6.5 | 4.5 | — | |

異形石器

(単位はmm, g)

| 遺物番号 | 石材 | 長さ | 幅 | 厚さ | 重さ | 色調 | 備考 |
|------------|----|------|------|-----|-----|-----|-------------|
| L28.20.58P | ob | 19.9 | 12.9 | 3.0 | 0.7 | 茶透明 | 石片②を剥片素材とする |

滑石

(単位はmm, g)

| 遺物番号 | 石材 | 長さ | 幅 | 厚さ | 重さ | 色調 | 備考 |
|------------|----|--------|-------|-------|-------|----|----|
| M29.91.61P | 滑石 | (12.0) | (5.0) | (3.3) | (0.3) | — | |

黒曜石以外の石器

(単位はmm, g)

| 遺物名 | 遺物番号 | 石材 | 長さ | 幅 | 厚さ | 重さ | 備考 |
|-------|------------|----|--------|-------|-------|---------|---------------|
| 打製石斧 | F16.17カカカ | 泥変 | (9.9) | (5.2) | 2.6 | (183.3) | 一側縁に潰し痕あり。未製品 |
| | F28.1茶カ | 緑凝 | (7.3) | (5.0) | (1.0) | (49.6) | |
| | G28.4茶カ | 泥 | (7.6) | 5.2 | 1.4 | (83.0) | |
| | M27.38茶カ | 緑凝 | (6.7) | (3.4) | (1.3) | (29.5) | 打斧? |
| | Z26 | 頁 | 9.8 | 4.1 | 1.6 | 90.2 | 短冊形 |
| | Z27 | 緑変 | (9.8) | (6.6) | (1.3) | (99.1) | |
| | Z271 | 粘 | (9.1) | 4.7 | 1.5 | (83.9) | |
| 磨製石斧 | G18.117カカカ | 砂 | (12.8) | (8.1) | (3.2) | (390.0) | |
| | H23.20外カ | 砂 | 15.9 | 6.3 | 2.1 | 200.0 | 打斧か? |
| 不定形石器 | O22.137カカカ | 粘 | (3.8) | (7.0) | (1.4) | (38.8) | |
| | V11.5コ | 緑凝 | 6.7 | 12.8 | 1.9 | 218.3 | |
| 磨石類 | G25.7外カ | 凝 | 13.2 | 5.5 | (4.4) | (399.8) | 凹石 |

おわりに

発掘調査終了から6ヵ月を過ぎた今、報告書の上梓をみるなかで今回の発掘調査にかかわる日々を思い返しています。

今回の発掘調査は調査以外に多くの準備を重ねてきました。現地にあった間下倉庫は、岡谷市内の発掘品の保管庫として長い期間利用してきた経過があり、報告書作成作業と並行して行われた榎垣外遺跡の整理遺物もすべてここに保管されていました。これらをすべて現在の分室に運び込み、復原品については棚出しを行い、資料の閲覧が容易にできる状況へと作業を行ってきました。それ等の作業は先々年の暮れから準備を始め昨年3月に一挙に実施し、こうして間下倉庫が空となり取り壊され調査へと至りました。

北西区の調査は5月下旬に入り、土止め用矢板打ちで調査が中断の間に、岡谷市では未曾有の災害が発生しました。豪雨による土石流が溪、川岸、長地地区に発生し、多くの人命を奪いました。今なお復旧ままならず、家の壁に土砂の爪跡を見るところもあります。災害は遠いところにあるのではなく、ごく身近にあることを思い知らされた出来事でありました。渡船渡社はすべて流失してしまいましたが、近隣の人々の手で土砂の中から掘り出され、すべてとはいきませんが石造物が発見され回収されています。

調査区脇の大川も多量の水が流入し、溢れ、付近の家が水に浸りました。今回の調査はその災害をなくすための避水地を造る事業に伴って行われ、現場付近の状況を見るにつけ、ある種の使命感のような感覚に襲われたのでした。

現場も矢板打ちの溝に水が溜まり池状態であり、調査再開に手間取りました。7月下旬から再び調査が始まりましたが、8月半ばの雨で再び現場は池状態に逆戻りしてしまいました。排水に3日間かけ何とか作業再開にこぎつけ、9月末に調査を終了しました。その間に、林製糸所の製糸遺構と遺物の発見があり、特に明治43年に開設された「平野製糸協同病院」銘の薬瓶は、岡谷市の歴史にとって、貴重なものとなりました。

10月から整理作業を経て報告書作成に入る中で、石器については会田進、河原喜重子両氏に丸投げとなりました。ほかに仕事があるなか尽力いただき感謝いたします。

最後になりましたが、調査と工事が並行して行われ調整に大変ご苦労いただきました。榎岡谷組の現場代理人大村光男さんには誠心より感謝いたします。また長野県諏訪建設事務所、榎岡谷組をはじめとする工事関連業者の皆様にもご協力いただきました。併せて感謝いたします。

本書編集、印刷についてはマルモ印刷幹様、仰みやび永井雅幸氏にお世話になりました。遅れごみの図版、原稿で申し訳なく思っています。

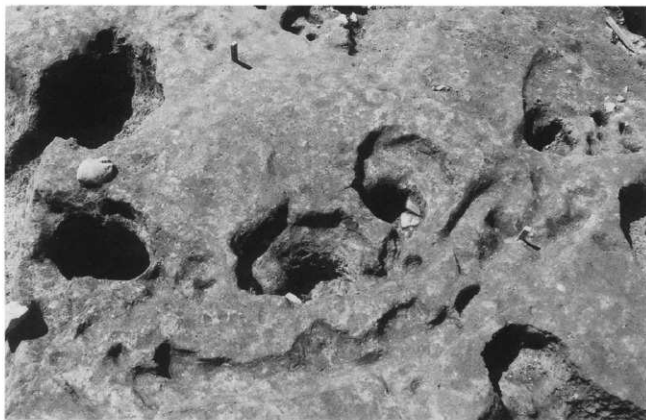
今回の発掘調査、整理、報告書作成に関わりましたすべての方に感謝申し上げ、筆を置くこととします。

平成19年3月

調査員担当者 山田武文



1 小竪穴群



2 14号住居跡（北東から）



3 40P (西から)



4 40P 内裏被り土器 (東から)



5 25P (東から)



6 46Pと95P (北東から)



7 41P (北から)



8 45P (南から)



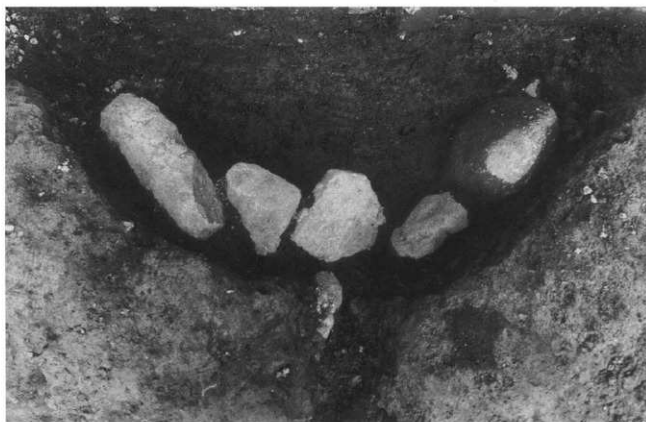
9 57P (西から)



10 72P (東から)



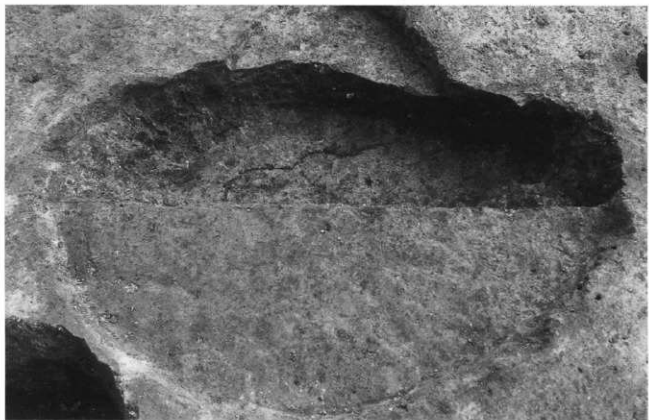
11 75P (西から)



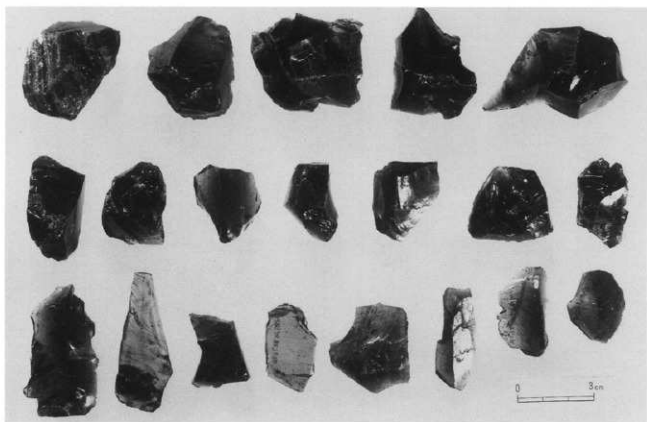
12 99P (西から)



13 81P骨片検出状況（南東から）



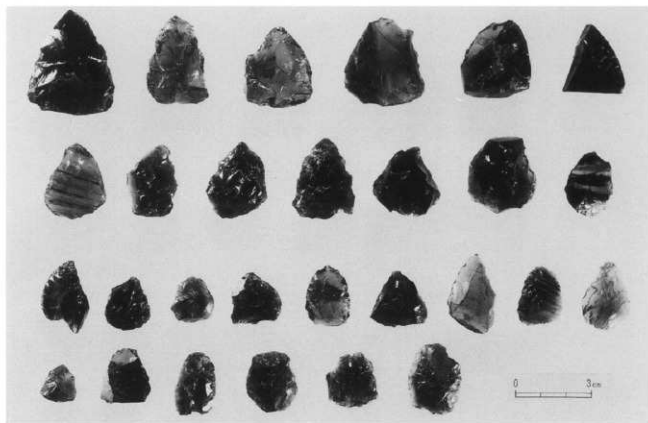
14 65P炭化物・焼土（北から）



15 原石



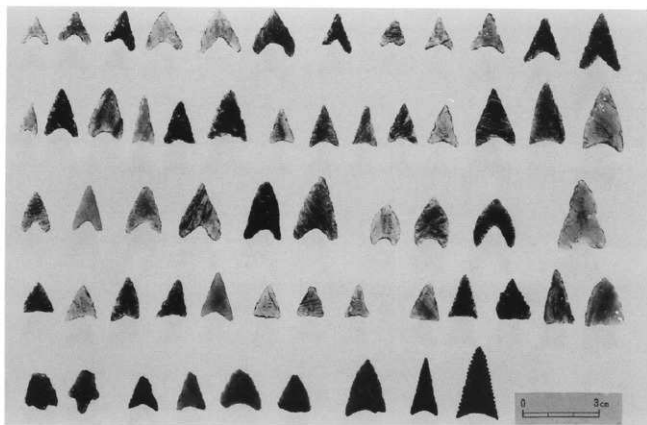
16 石核



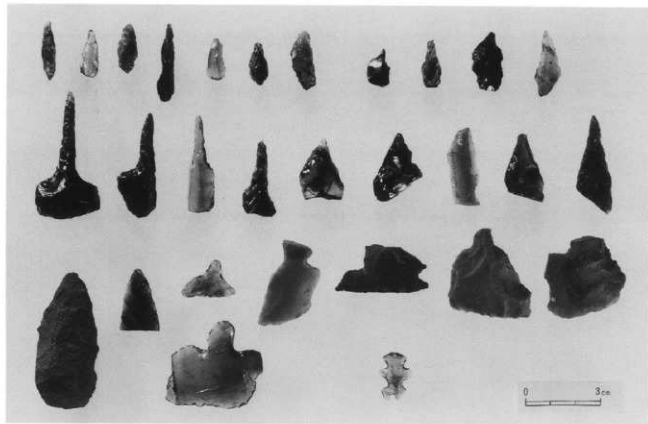
17 石礫木製品



18 石礫木製品



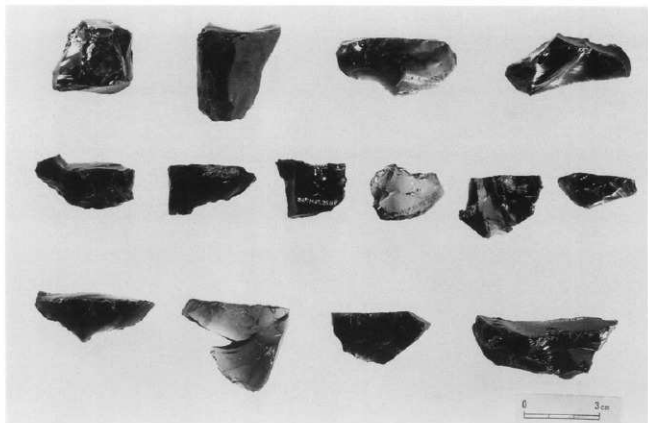
19 石鏃



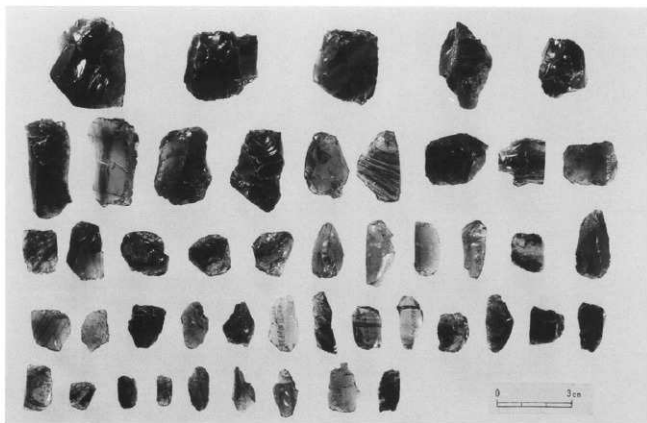
20 石錐・尖頭器・石匙・異形石器



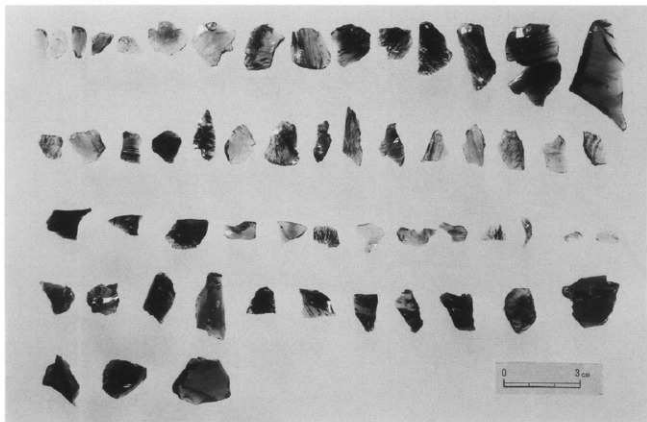
21 スクレイパー類



22 彫器



23 両極剝離を有する石器



24 剥片類

報告書抄録

| ふりがな | ましたまるやま | | | | | | | |
|---------------|--|-------|-----------------|------------------|-------------------|--|------------------------|----------------|
| 書名 | 間下丸山遺跡 | | | | | | | |
| 副書名 | 平成18年度国庫補助事業・総合流域防災事業に伴う間下丸山遺跡発掘調査報告書 | | | | | | | |
| 巻次 | | | | | | | | |
| シリーズ名 | 郷土の文化財 | | | | | | | |
| シリーズ番号 | 28 | | | | | | | |
| 編著者名 | 長野県岡谷市教育委員会 | | | | | | | |
| 編集機関 | 長野県岡谷市教育委員会 | | | | | | | |
| 所在地 | 〒394-8510 長野県岡谷市幸町8-1 TEL 0266-23-4811 | | | | | | | |
| 発行年月日 | 西暦 2007年3月16日 | | | | | | | |
| ふりがな 所収遺跡名 | ふりがな 所在地 | コード | | 北緯 ° / ′ | 東経 ° / ′ | 調査期間 | 調査面積 m ² | 調査原因 |
| | | 市町村 | 遺跡番号 | | | | | |
| 間下丸山 | 長野県 岡谷市 山下町 | 20204 | 83 | 36° 3′ 53″ | 138° 2′ 40″ | 20060530 ~ 20060608 20060726 ~ 20060925 | 1486.44 | 山下町調節池 設置工事 |
| 所収遺跡名 | 種別 | 主な時代 | 主な遺構 | | 主な遺物 | | 特記事項 | |
| 間下丸山 | 集落 | 縄文時代 | 住居址1棟 小堅穴54基 | | 縄文式土器 | | | |

郷土の文化財28
MASHITAMARUYAMA SITE
間下丸山遺跡

発行日 平成19年3月16日
発 行 岡谷市教育委員会
〒394-8510 長野県岡谷市幸町8-1
TEL. 0266(23)4811
(生涯学習課分室埋蔵文化財整理室)
〒394-0028 長野県岡谷市本町4-1-39
TEL. 0266(23)4811
制 作 マルモ印刷株式会社
印 刷 〒394-0027 長野県岡谷市中央町1-7-13
TEL. 0266(21)1100
編 集 有限会社みやび

